

- このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容(指示)にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味

**警告**

- 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。

**注意**

- 取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号

**ポイント**

- 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。

※

- 取付説明の内容全体(個々の説明枠)にかかる注意事項を示しています。
- 取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。

**補足**

- 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

※製品破損、倒壊による人への危害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。

＜施工の前に＞

**注意**

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- 当商品は、ブロック塀の補強や控え壁の代用として使用することはできません。
- 壁貫通納まりで、新たに壁を設置する場合、アーチ柱を貫通する壁の基礎の配筋などは、現場に合わせて適切に行なってください。

**ポイント**

- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。
- 梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。
- 施工場所の寸法に製品が正しく納まるか確認してください。
- LEDダウンライト、LEDスクエアライトの取付けにはφ33のホールソーが必要です。
- 壁貫通納まりの場合、鉄筋アンカーなどをご用意ください。
- 壁貫通納まりの場合はφ6～φ25のバックアップ材が必要です。壁とアーチ柱の隙間に合わせてをご用意ください。
- シーリング材(変成シリコン系指定、例:セメダインPOSシール、コニシボンド変成シリコンコーク)は、現場手配してください。
※テグランネオ(アクリルパネルあり)接続部分は脱アルコール系のシーリング材(例:信越化学工業 シーラント72、モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ トスシール380)を現場手配してください。

＜施工上のご注意＞

**注意**

- ボルト、ネジは弊社純正品の規定本数を確実に締付け、固定してください。
・ネジ締付けトルク: φ4ネジ: 2.5N・m ± 0.5N・m (25 ± 5kgf・cm)
- アルミ製品が異種金属と接触する場合は、絶縁処理をしてください。

<施工上のご注意 つづき>

ポイント

- 製品の改造は絶対にしないでください。
- 施工終了後は、ボルト、ネジなどにゆりみがないか確認してください。
- 施工工事にあたっては、安全に施工を行なってください。
 - ・作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、手、足の保護具）を正しく使用してください。
 - ・作業場所の整理整頓を行なうとともに、安全確保を行なってください。特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・器具、工具、保護具などの機能を確認し、使用してください。
 - ・作業は、相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は、有資格者が行なってください。
 - ・作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分に確認し、健康管理を実施してください。
 - ・万が一、事故が発生した際には、直ちに手当を行ない、救助を第一に心がけてください。
- 取付説明書の順序通りに組付けてください。製品の強度など、性能が低下する場合があります。
- 施工中についた汚れは取除き、誤ってキズをつけた場合は補修塗料で補修してください。

<基礎工事についてのご注意>

注意

- 基礎は弊社指定の寸法以上にしてください。強度低下の原因になります。
- 寒冷地で凍上するおそれのある地域で使用する場合は、凍上線の下まで基礎を設けてください。強度低下の原因になります。
- 柱内の水抜きができるよう、基礎には必ず砕石を敷き、柱と基礎の付け根に水抜き穴（φ6）をあけてください。柱内の水が凍結膨張し、柱が破損するおそれがあります。
- 養生期間は十分にとり、その間に重い物をのせたり、振動を与えないでください。

ポイント

- コンクリート（またはモルタル）には、塩分を含む砂（海砂）および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤など）は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食する原因になります。必要の場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。
- モルタルやコンクリートの抽出液が、施工中に製品に付着しないように注意してください。抽出液は強アルカリ性で、シミやムラなどの外観不良の原因になります。
- 製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは、速やかに拭き取ってください。
- 柱・フレームの施工寸法に狂いが生じていないか、確認してから養生してください。

<電気配線工事について>

注意

- AC100Vの電線の埋設工事、配線作業に関しては、電気工事店の有資格者に依頼してください。故障や漏電した場合に感電する恐れがあります。

ポイント

- LEDユニットを取付ける場合には「入切スイッチ」を別途設けてください。「入切スイッチ」を設けないとお手入れの際、夜間照明を消したい場合に電源をOFFにできません。「入切スイッチ」は現場で別途手配してください。
- 「入切スイッチ」にパイロットスイッチを使用すると、「入切スイッチ」をONにしても照明が消灯状態のときはパイロットスイッチ表示が点灯しません。
- 照明用配線と信号線は電線管により隔離してください。
- 機器に接続する電圧、極性を間違えないでください。故障の原因になります。
- インターホン用配線に使用するY端子は、1.25-3を別途準備してください。

<施工の後に>

ポイント

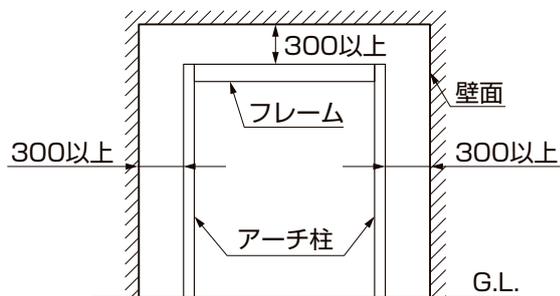
- 取扱説明書はお施主様にお渡しください。

INDEX

1	施工条件	4
2	梱包明細表	5
3	各部の名称と基本寸法	7
1.	各部の名称	7
2.	基本寸法	9
3.	基礎寸法	12
4	部材の加工	14
5	本体の施工	18
1.	柱の建込み	18
2.	フレームの取付け	22
3.	フレーム化粧材の取付け	23
4.	縦格子の取付け オプション	24
5.	テグランネオ接続	25
6.	基礎の打設	26
7.	壁貫通納まりの施工	27
8.	内側の柱化粧材の取付け	28
9.	横格子の取付け オプション	29
10.	サインの取付け オプション	30
11.	インターホンの取付け オプション	31
12.	ポストの取付け オプション	31
13.	外側の柱化粧材の取付け	34
14.	柱キャップ、フレームカバーの取付け	35
15.	シーリング処理	35

1 施工条件

1-1 壁際に設置する場合



ポイント

- アーチ柱の側面は、壁面から300mm以上離してください。アーチ柱と壁面の間隔が狭いと、外側の柱カバーの取付けができなくなります。
- フレームの上面は壁面から300mm以上離してください。フレームと壁面の間隔が狭いと、フレームカバーの取付けができなくなります。

1-2 壁貫通納まりの場合

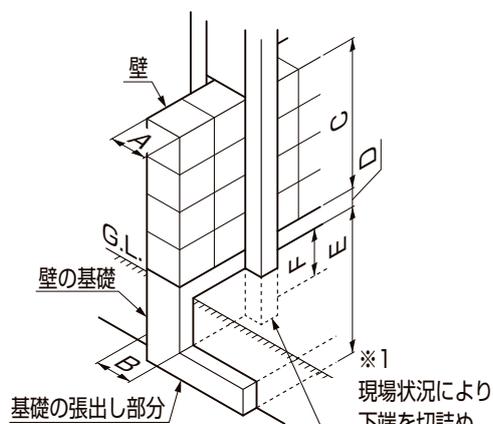
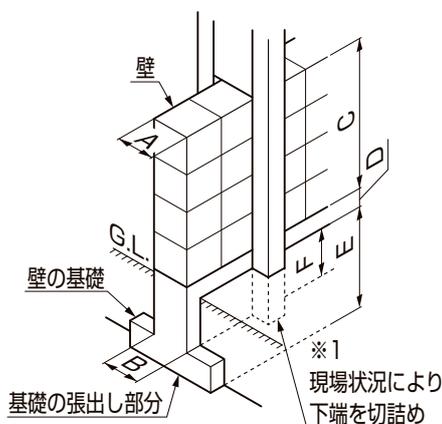
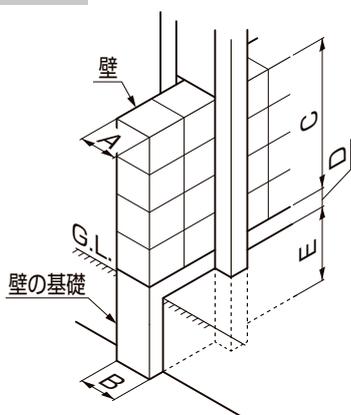


図1-1 I形基礎の場合

図1-2 逆T形基礎の場合

図1-3 L形基礎の場合

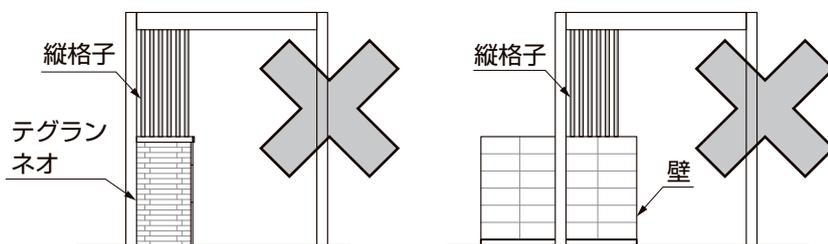
表1-1

	寸法		寸法		寸法
A: 壁厚み	165以下	C: 壁高さ	2000以下	E: 壁の基礎根入れ深さ	350以上
B: 壁の基礎厚み	165以下	D: 壁基礎立ち上がり	50程度	F: アーチ柱の埋込み深さ	200以上

ポイント

- アーチ柱を貫通する壁を新たに設置する場合、壁の基礎は先に仕上げてください。
 - アーチ柱を貫通する壁および壁の基礎の厚さは165mm以下としてください。壁および壁の基礎の厚さが165mmより大きいとアーチ柱の取付けができません。
 - アーチ柱を貫通する壁の高さは2000mm以下としてください。壁の高さが2000mmより大きいと、柱カバーの取付けができなくなります。
 - アーチ柱を貫通する壁の基礎が逆T形、L形基礎の場合、アーチ柱の下端を切断して、壁の基礎の張出し部分に干渉しないようにしてください。
 - ・アーチ柱の埋込み深さは200mm以上になるようにしてください。
- ※1: アーチ柱の下端を切詰めした場合、アーチ柱の基礎サイズが大きくなりますのでご注意ください。(詳しくはP.10、P.12を参照してください。)

1-3 縦格子を取付ける場合

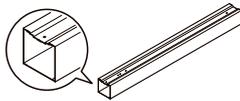
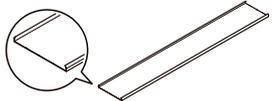
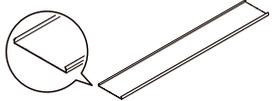
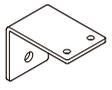
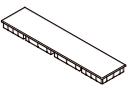


ポイント

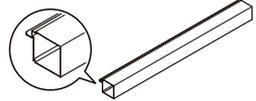
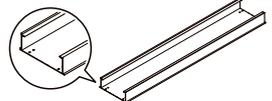
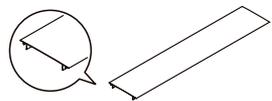
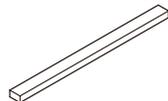
- フラットアーチに縦格子を取付けた場合、縦格子取付側でのテグランネオ接続や壁貫通納まりはできません。

2 梱包明細表

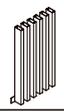
【1】柱セット

名 称	略 図	員 数
アーチ柱		2
柱化粧材 (H24_1)		1
柱化粧材 (H24_2)		1
柱ピース材		12
柱化粧材 (固定用)		2
アーチF固定金具		2
アーチ柱キャップ		1
【1-1】φ4×10トラスタッピンネジ3種		20

【2】フレームセット

名 称	略 図	員 数	
		W20用	W30用
フレーム化粧材		2	2
フレーム		1	1
フレームカバー		1	1
止水パッキン		2	2
【2-1】φ4×13ナベドリルネジ		10	12
取付説明書〈A601〉	—	1	1
取扱説明書〈UA221〉	—	1	1

【3】意匠部材セット 縦格子タイプ

名 称	略 図	員 数
縦格子		1
【3-1】φ4×30ナベタッピンネジ2種		6

【4】意匠部材セット 横格子タイプ

名 称	略 図	員 数	
		W20用	W30用
横格子		1	1
横格子 端部用		1	1
横格子固定材		2	2
【4-1】φ4×12トラスタッピンネジ2種		4	6
【4-2】φ4×10トラスタッピンネジ3種		4	4

【5】ポスト取付部品セット

名 称	略 図	員 数
ポスト取付金具		2
【5-1】φ4×16サラタッピンネジ3種		6
【5-2】φ4×10トラス小ネジ		4
【5-3】M4用ターンナット		2

【6】サイン(ガラスサイン・鋳物サイン・ステンレスサイン)

名 称	略 図	員 数			
		ガラスサイン	鋳物サイン	ステンレスサイン	ガラスサイン(特注)
ガラスサイン		1	-	-	1
鋳物サイン		-	1	-	-
ステンレスサイン		-	-	1	-
ネームシール	 AAAABB CCDEEF GGHHIII JKLLMM NNOOPP QRRSST TUUVVW XYZY ZZZ	2 (※)	1	1	-
【6-1】化粧ネジ M4用		4	-	-	4
【6-2】M4×20ナベ(SW+PW)		4	-	-	4
【6-3】ゴムスペーサー L=6		4	-	-	4
【6-4】M4ゴムワッシャー		4	-	-	4
【6-5】φ4×6トラスタッピンネジ(D=8) 3種		-	2	-	-
【6-6】M4六角ナット		-	-	4	-

※黒文字と白文字の2種類同梱しています。

【7】サイン(江戸硝子サイン・備前焼サイン)

名 称	略 図	員 数	
		江戸硝子サイン(特注)	備前焼サイン(特注)
江戸硝子サイン 150角		1	-
備前焼サイン 145角		-	1
【7-1】化粧ネジ M4用		-	4
【7-2】化粧ネジ M6用		4	-
【7-3】M6高ナットL=15		4	-
【7-4】M6ゴムワッシャー		8	-
【7-5】M4全ネジ L=25		-	4
【7-6】M6全ネジ L=40		4	-
【7-7】M4六角ナット		-	4
【7-8】M6六角ナット		4	-

【8】集合住宅向けサイン

名 称	略 図	員 数
集合住宅向けサイン		2
【8-1】M4×16サラ小ネジ		4
【8-2】M4用ターンナット		4

【9】角面材18×20壁付用

名 称	略 図	員 数
カバー		1
ベース		1

【10】φ4×10トラスタッピン3種

名 称	略 図	員 数
【10-1】φ4×10トラスタッピン3種		50

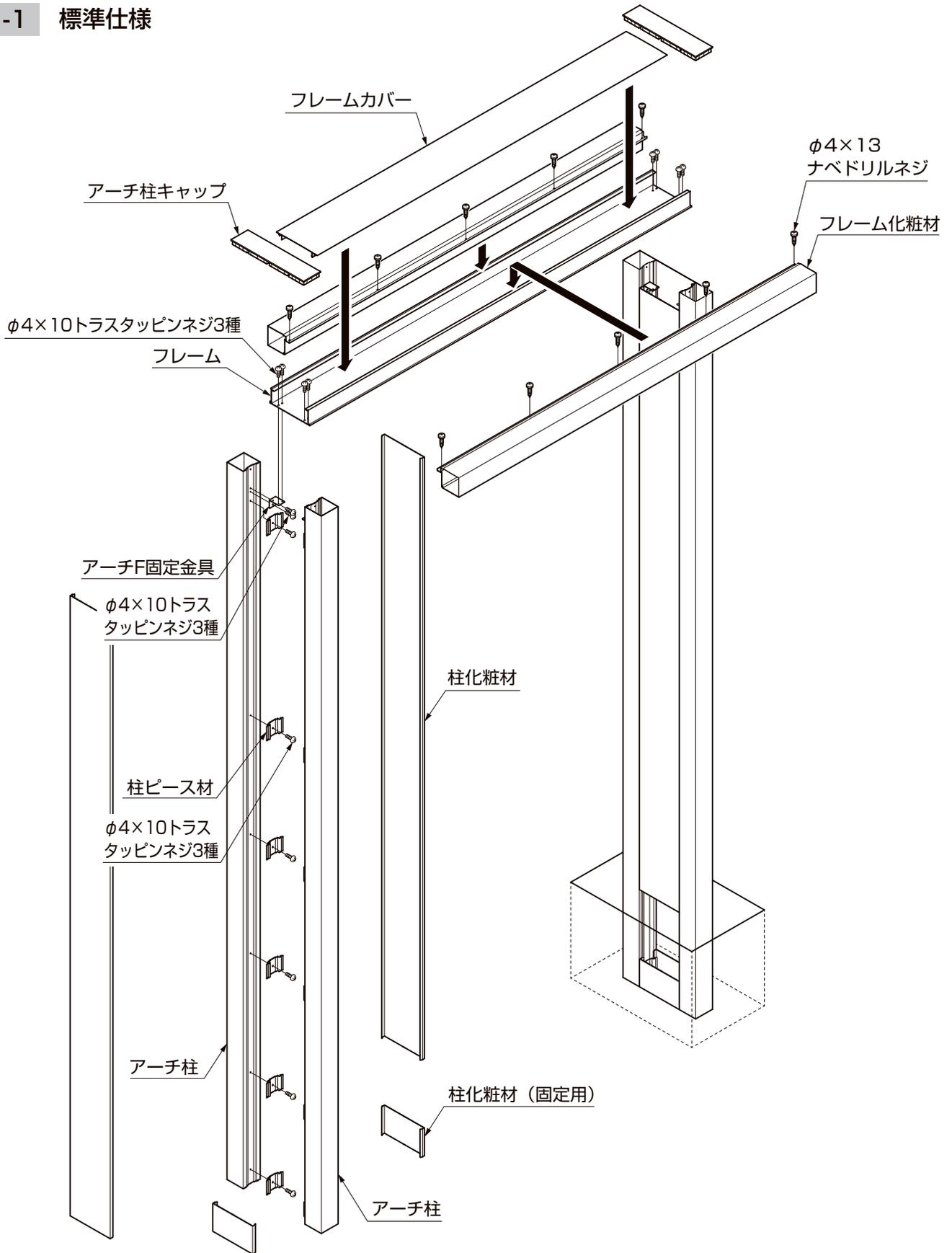
【11】M4用ターンナット

名 称	略 図	員 数
【11-1】M4用ターンナット		10

3 各部の名称と基本寸法

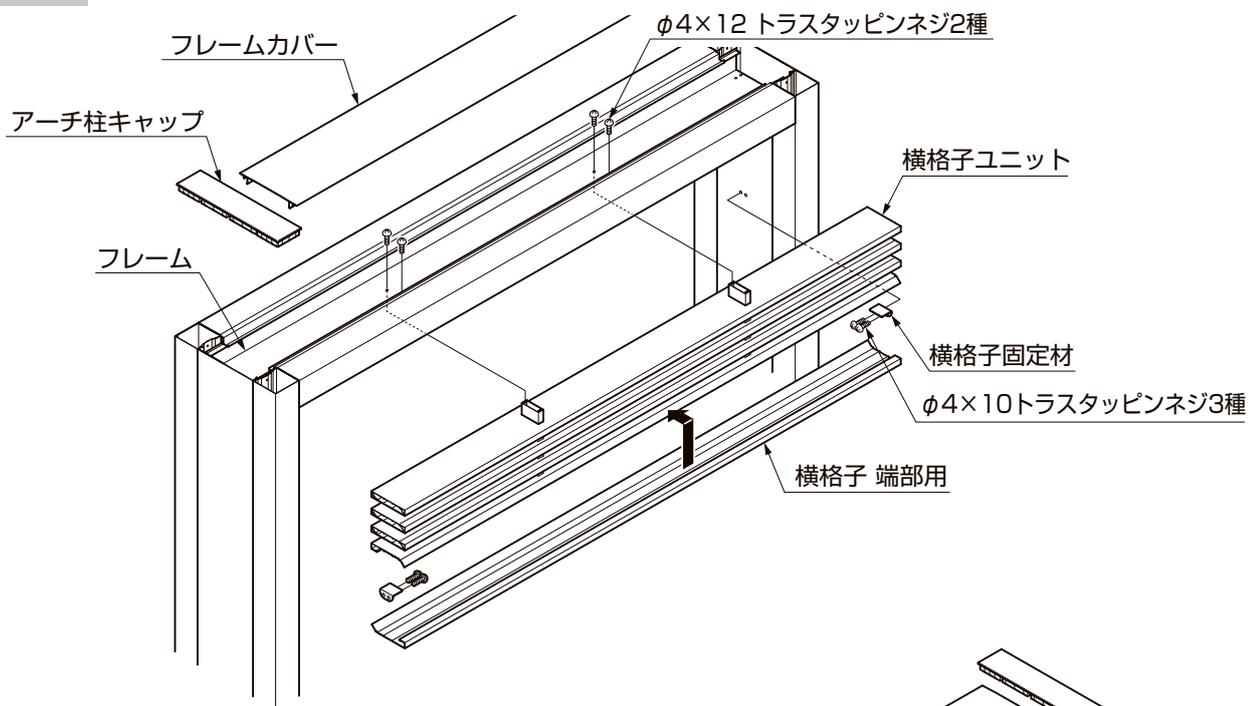
1. 各部の名称

1-1 標準仕様

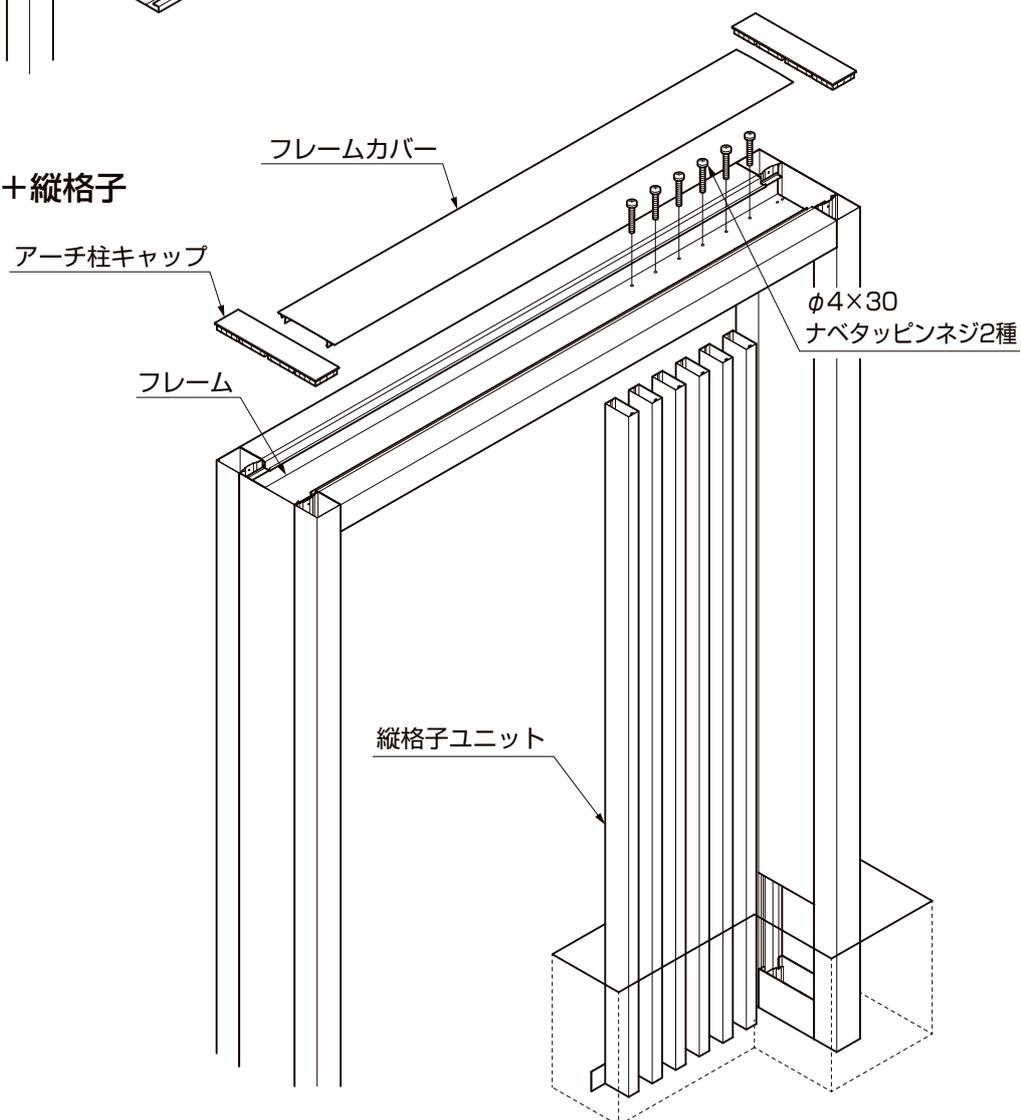


1. (つづき)

1-2 標準仕様+横格子



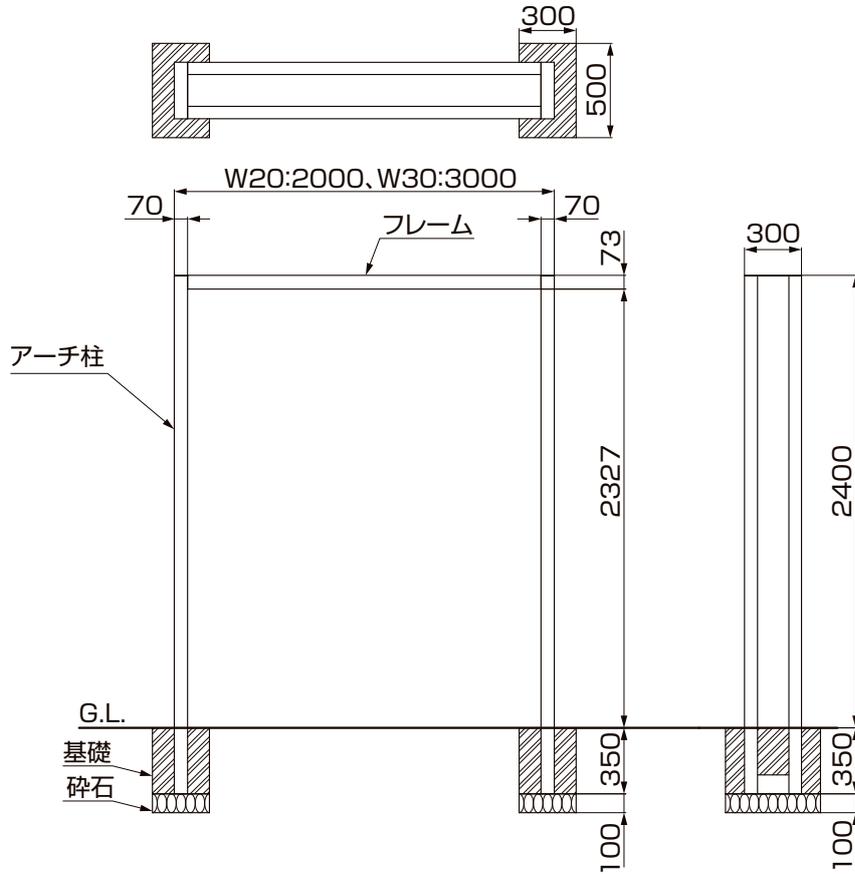
1-3 標準仕様+縦格子



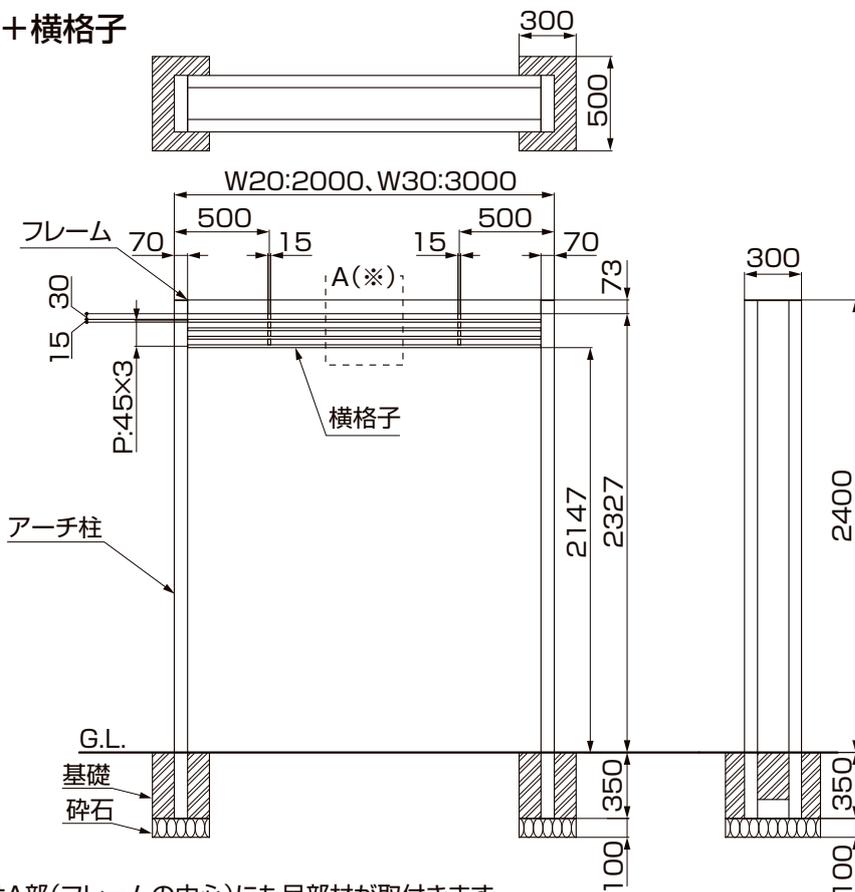
3 各部の名称と基本寸法

2. 基本寸法 ※図はW20で示します。

2-1 標準仕様



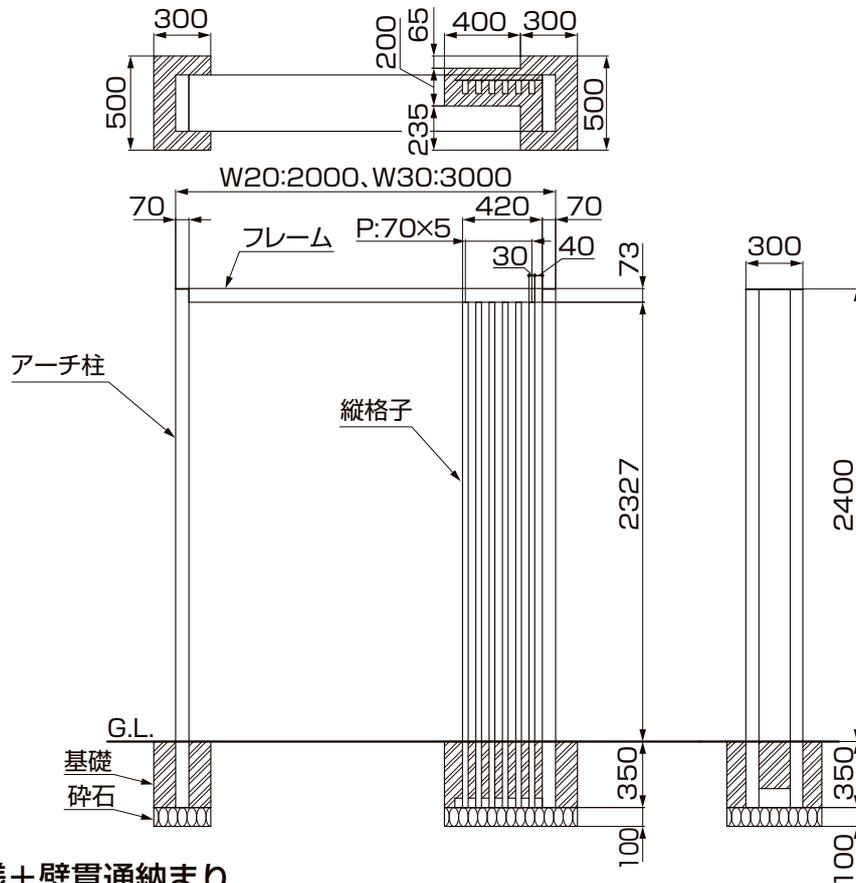
2-2 標準仕様+横格子



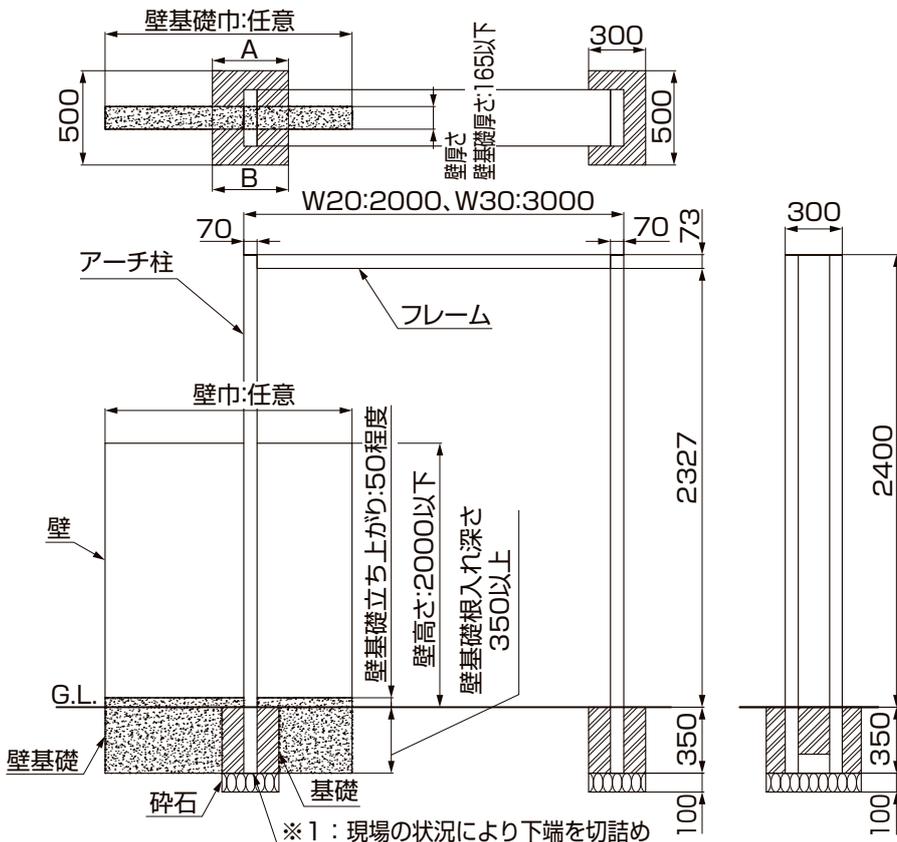
※W30の場合はA部(フレームの中心)にも吊部材が取付きます。

2. (つづき)

2-3 標準仕様+縦格子 ※本図は外観右側に取り付けた場合です。(外観左側にも取付け可能です。)



2-4 標準仕様+壁貫通納まり



※本図は外観右側に取り付けた場合です。(外観左側にも取付け可能です。)

※貫通させる壁の基礎は現場に合わせて十分に確保してください。

※1：アーチ柱の下端を切詰めた場合、アーチ柱の基礎サイズが大きくなりますのでご注意ください。

表2-1

柱下端の切り詰め	A	B
なし	500	500
あり	650	650

※1：現場の状況により下端を切詰め

2-5 標準仕様+テグランネオ接続

- ※本図はW05のテグランネオ(使用タイル:細割ボーダー)を接続した場合です。
- ※本図は外観左側に接続した場合です。(外観右側にも接続可能です。)
- ※テグランネオ(タイルフレーム仕様)は接続できません。

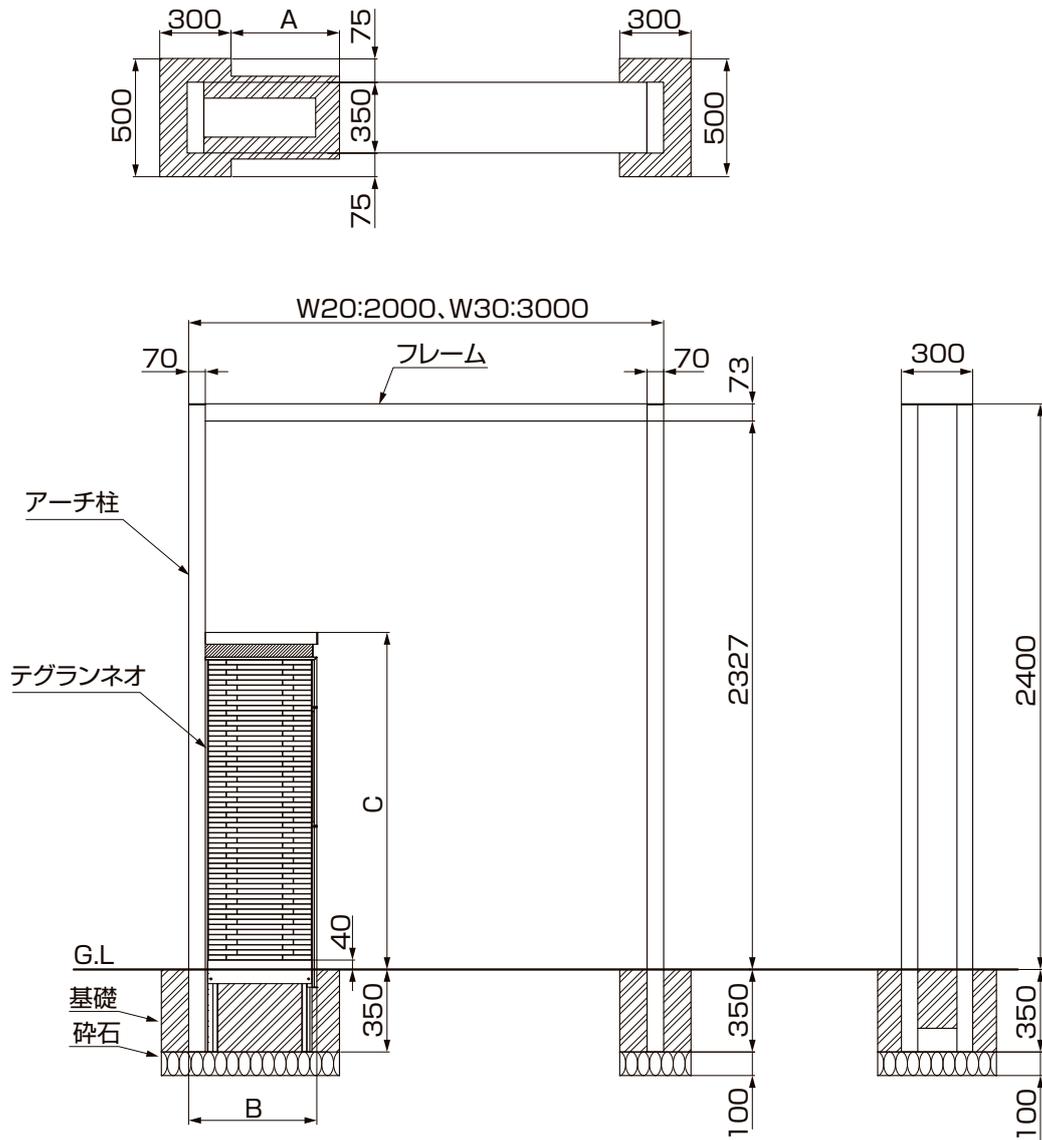


表2-2

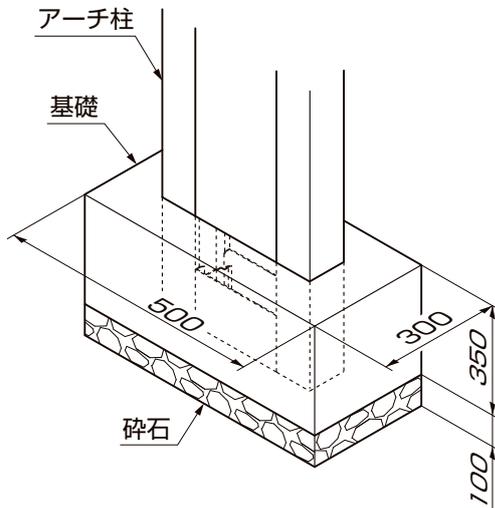
サイズ	A	B
W05	455	540
W08	735	820

表2-3

仕様	C
アクリルパネルあり	1430
アクリルパネルなし	1363.5

3. 基礎寸法

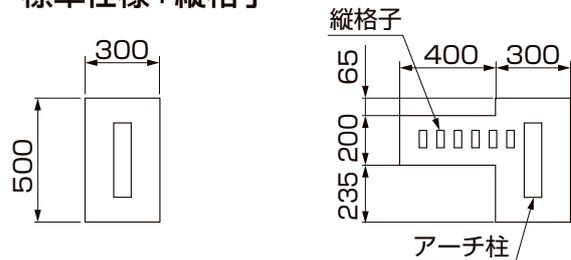
3-1 基礎寸法



(1) 標準仕様



(2) 標準仕様+縦格子



(3) 標準仕様+壁貫通納まり

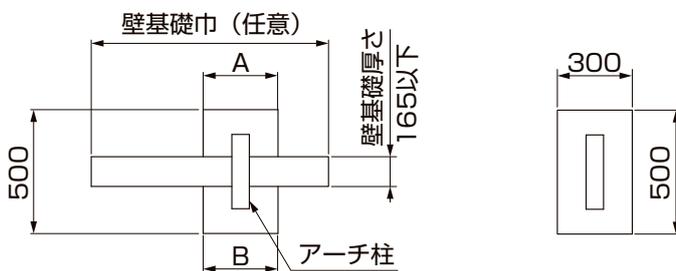
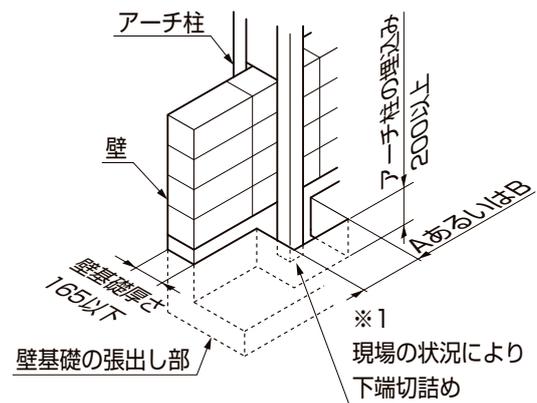


表3-1

柱下端の切詰め	A	B
なし	500	500
あり	650	650

ポイント

- アーチ柱を貫通する壁を新たに設置する場合、壁の基礎は先に打設してください。
- ※1：アーチ柱の下端を切詰めた（埋込みを浅くした）場合、アーチ柱の基礎サイズが大きくなりますのでご注意ください。



※図は壁の基礎がL形基礎の場合です。

(4) 標準仕様+テグランネオ

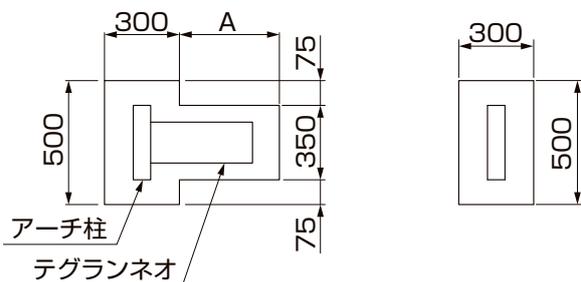


表3-2

サイズ	A
W05	455
W08	735

3-2 配線工事 ※LED照明、インターホンを取付ける場合の作業です。

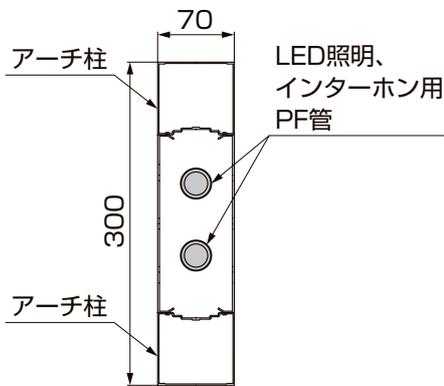
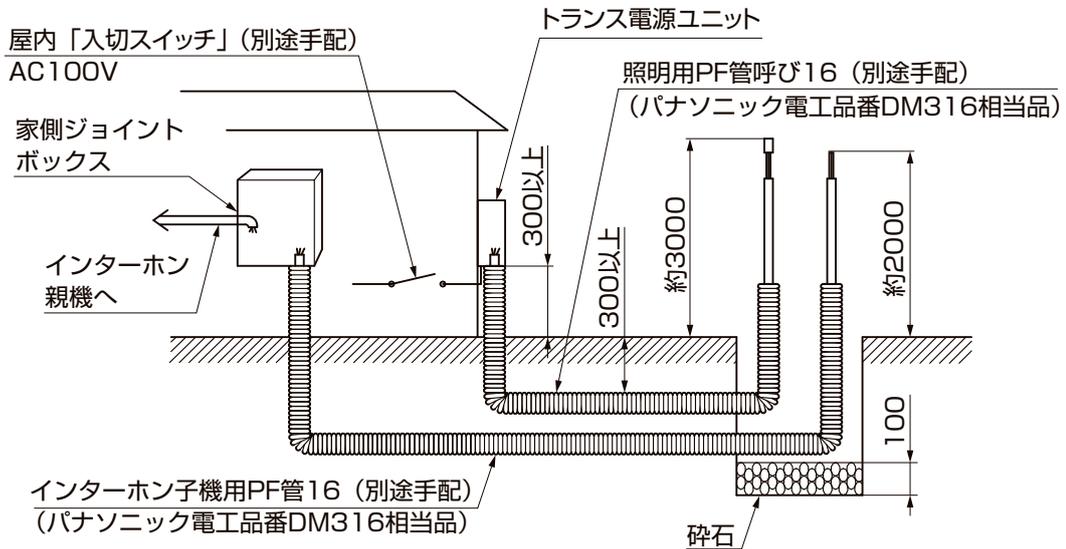


図3-1 配管位置
標準仕様/横格子取付時/縦格子取付時

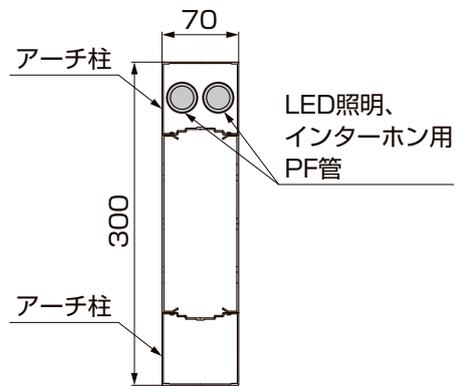


図3-2 配管位置
壁貫通納まり/テグランネオ接続

①基礎穴を掘り、砕石を敷いてください。

ポイント

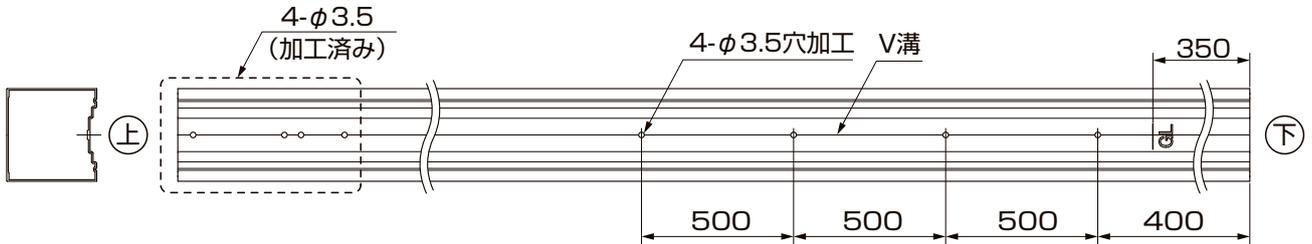
- 配管はG.L.より200mm程度立上げ、パテ埋めなどの処理を施してください。
- 照明とインターホン子機用配線は、PF管により隔離してください。
- 屋内「入切スイッチ」は必ず設けてください。ランプ交換やお手入れの際、夜間照明を消灯したい場合に電源をOFFにできなくなります。

②照明およびインターホン子機用の配線配管をしてください。(図3-1、図3-2参照)

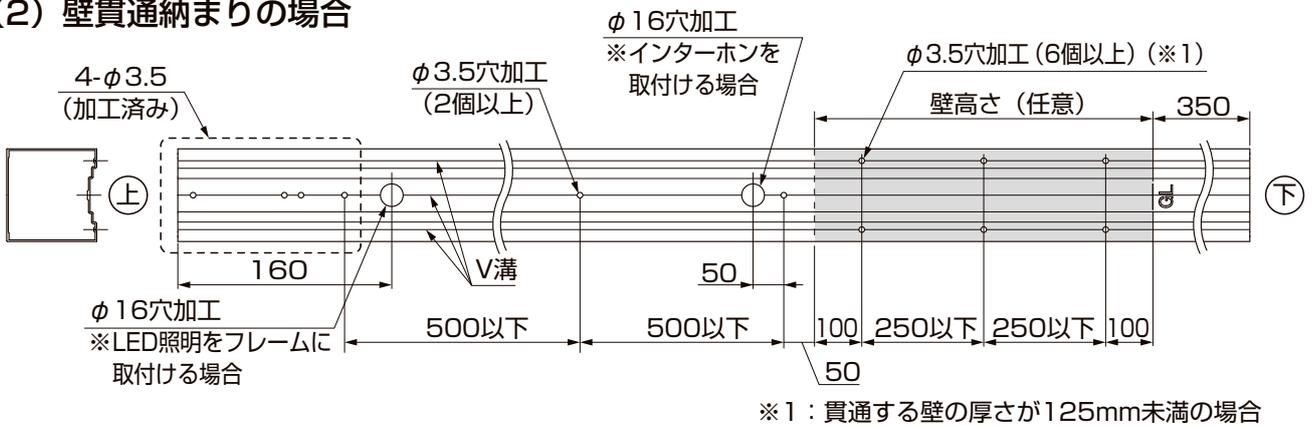
4 部材の加工

1-1 柱の加工

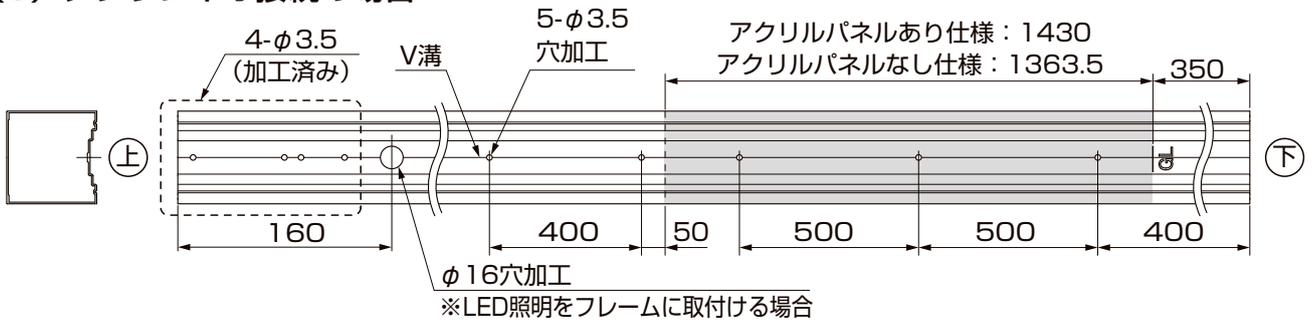
(1) 標準仕様の場合



(2) 壁貫通納まりの場合



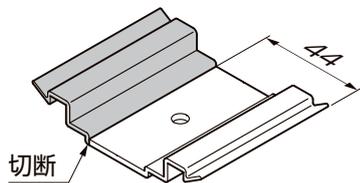
(3) テグランネオ接続の場合



(4) LED照明をフレーム化粧材に取付ける場合 ※(1)、(2)、(3)に追加で加工を行なってください。

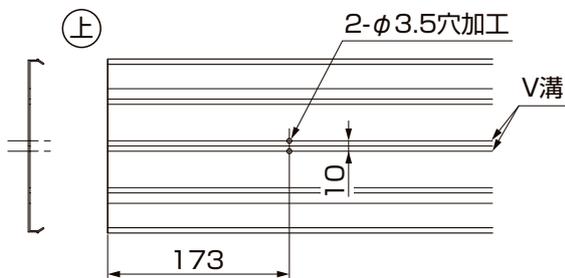


1-2 柱ピース材の加工 ※テグランネオ接続の場合、3個だけ以下の加工を行ってください。

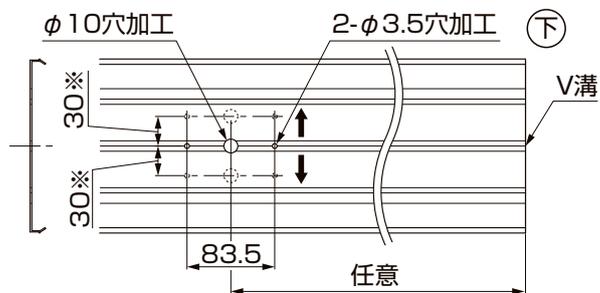


1-3 柱化粧材の加工 ※内側の柱化粧材（長さの短い方）のみ加工を行なってください。

(1) 横格子を取付ける場合

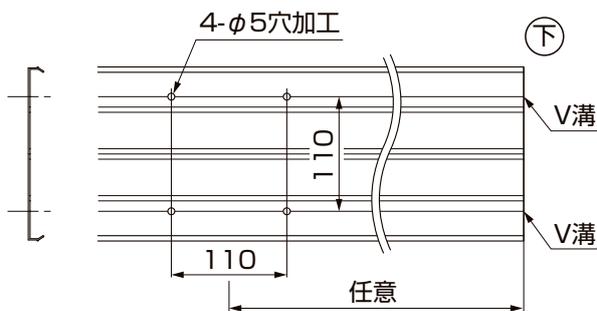


(2) インターホンを取付ける場合

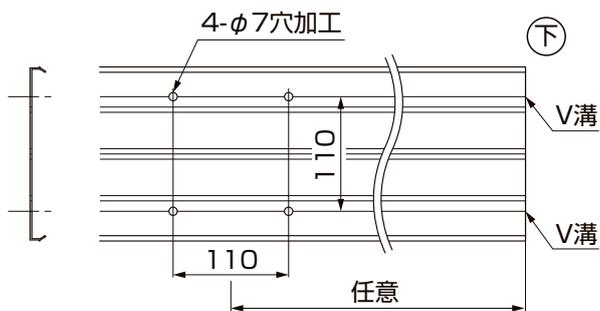


※中心のV溝から左右に30mmまではずらして取付け可能です。

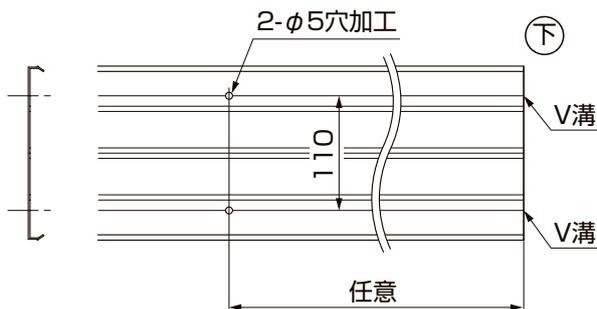
(3) ガラスサインを取付ける場合



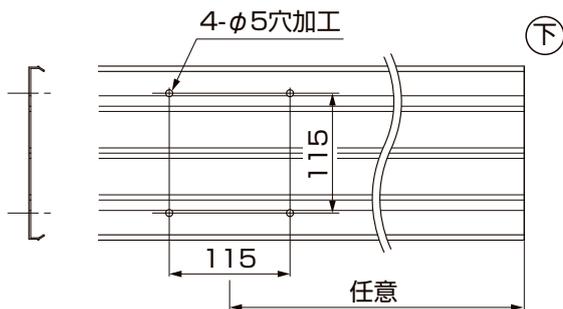
(4) 江戸ガラスサインを取付ける場合



(5) 鋳物・ステンレスサインを取付ける場合



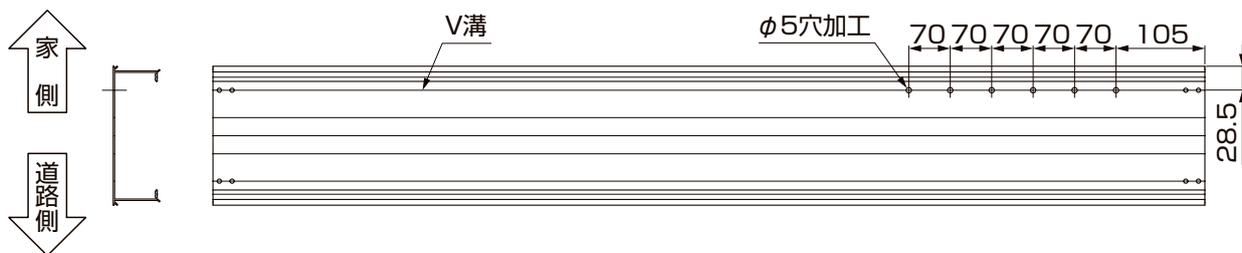
(6) 備前焼サインを取付ける場合



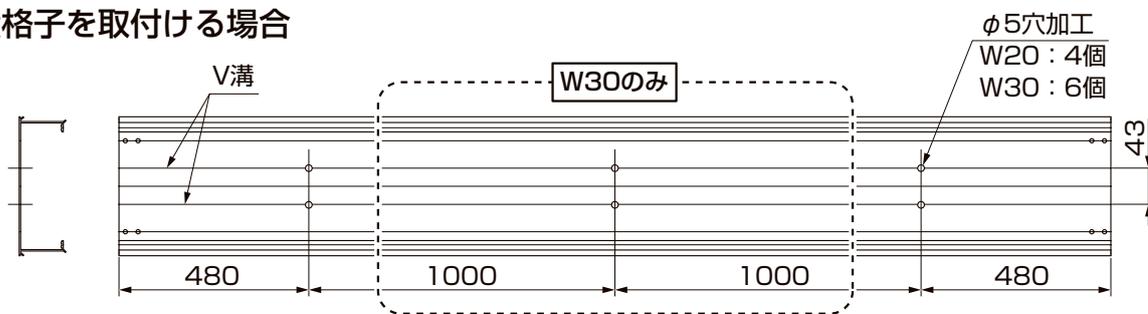
1-4 フレームの加工 ※標準納まりでLED照明を取付けない場合は不要です。

(1) 縦格子を取付ける場合

※本図は外観右側を取付ける場合を示します。外観左側を取付ける場合は左右対称になります。
 ※LED照明を取付ける場合は、(3) も合わせて加工してください。



(2) 横格子を取付ける場合



ポイント

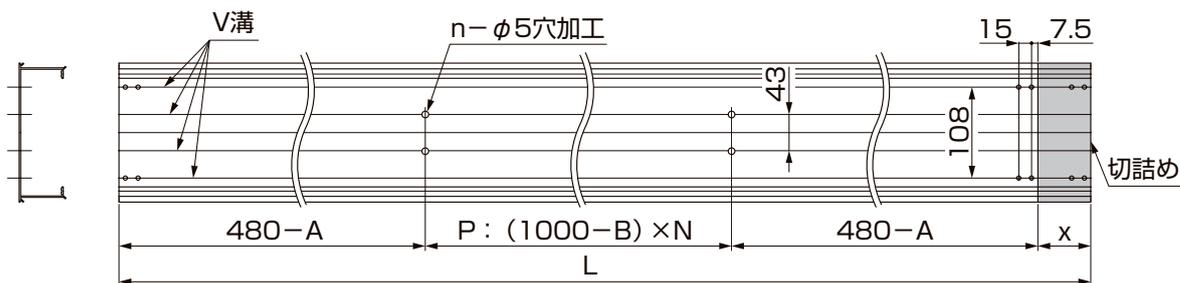
●横格子を切詰め特注した場合は、以下の内容で加工してください。

表1-1

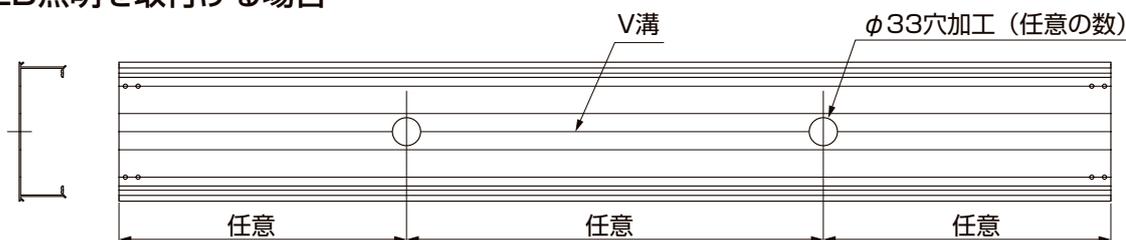
切詰め寸法 x	A	B
1~500	$x/2$	0
501~1000	250	$(x-500)/N$

表1-2

元のサイズ	N	n
W20	1	8
W30	2	10

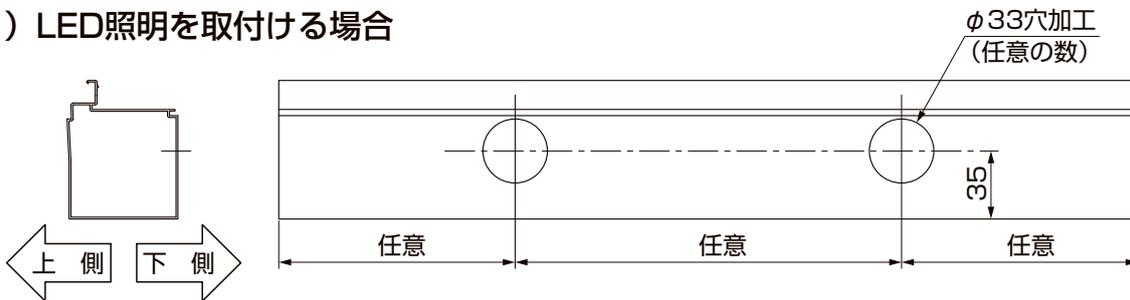


(3) LED照明を取付ける場合

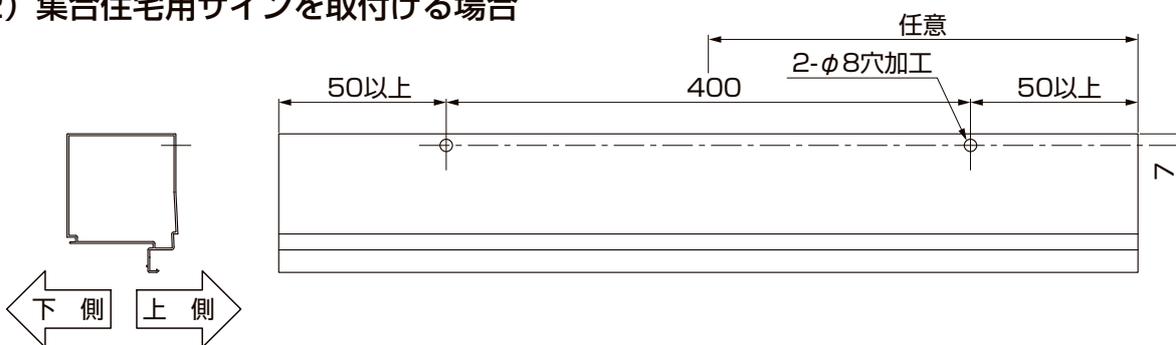


1-5 フレーム化粧材の加工

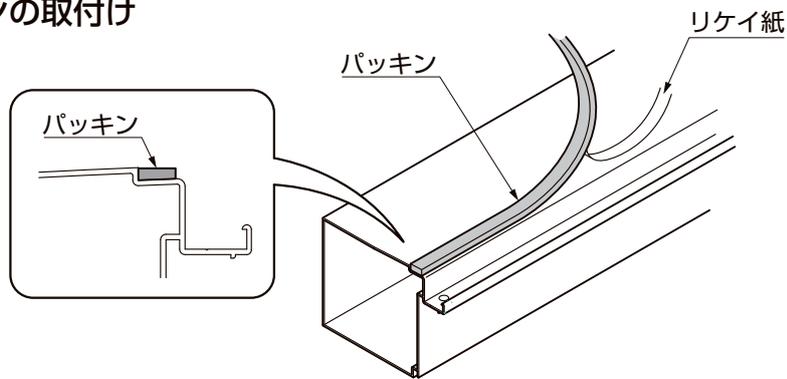
(1) LED照明を取付ける場合



(2) 集合住宅用サインを取付ける場合

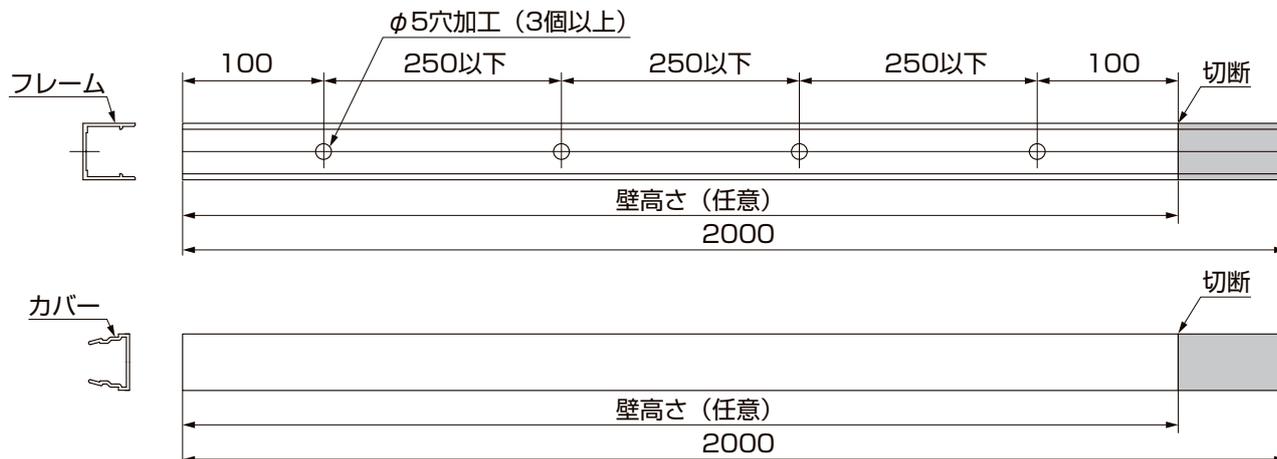


(3) パッキンの取付け



1-6 角面材18×20壁付用の加工

※壁貫通納まりで壁の厚みが125mm未満の場合の作業です。
 ※ 1-1 (2) の加工と合わせてください。

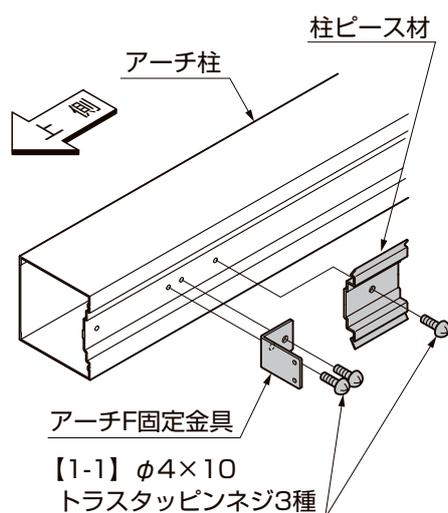


5 本体の施工

1. 柱の建込み

1-1 柱の組立て

(1) 柱ピース材、アーチF固定金具の取付け



ポイント

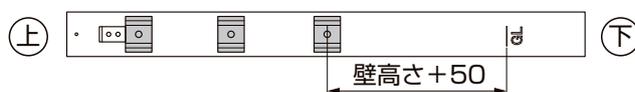
●柱ピース材の取付け位置は以下を確認してください。

◻：柱ピース材 ◻：加工した柱ピース材

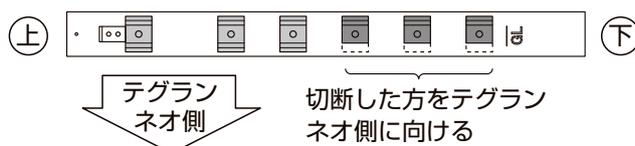
【標準仕様の場合】



【壁貫通納まりの場合】

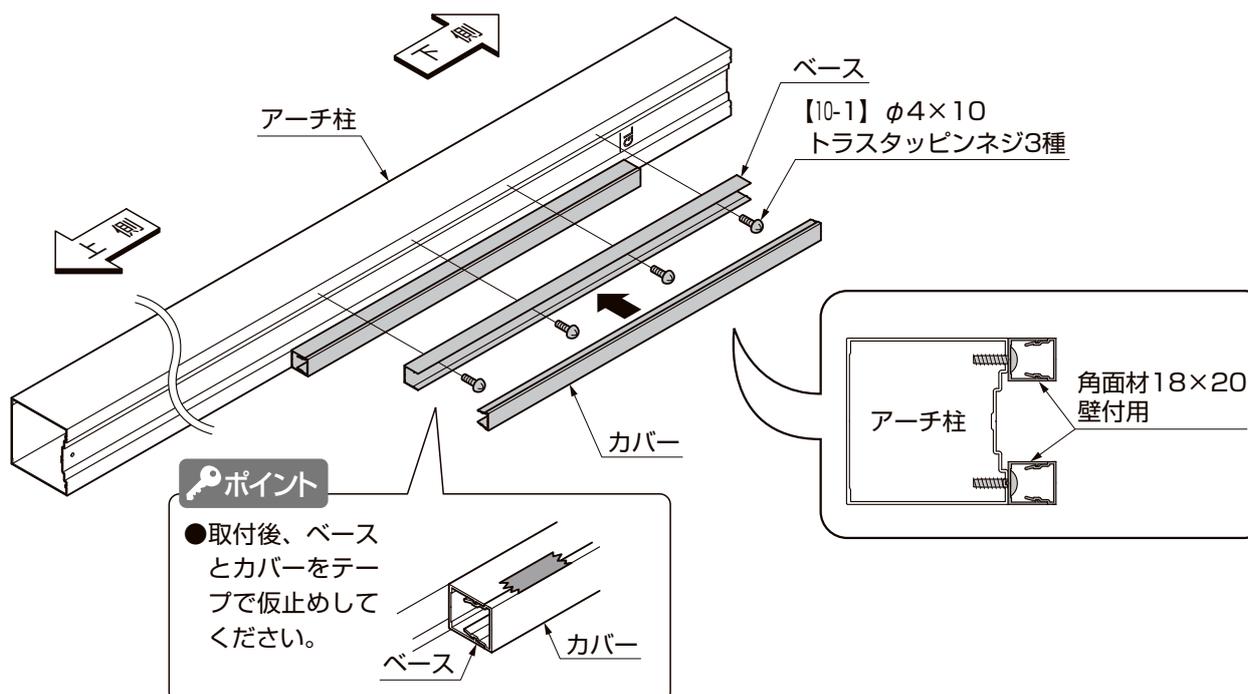


【テグランネオ接続の場合】



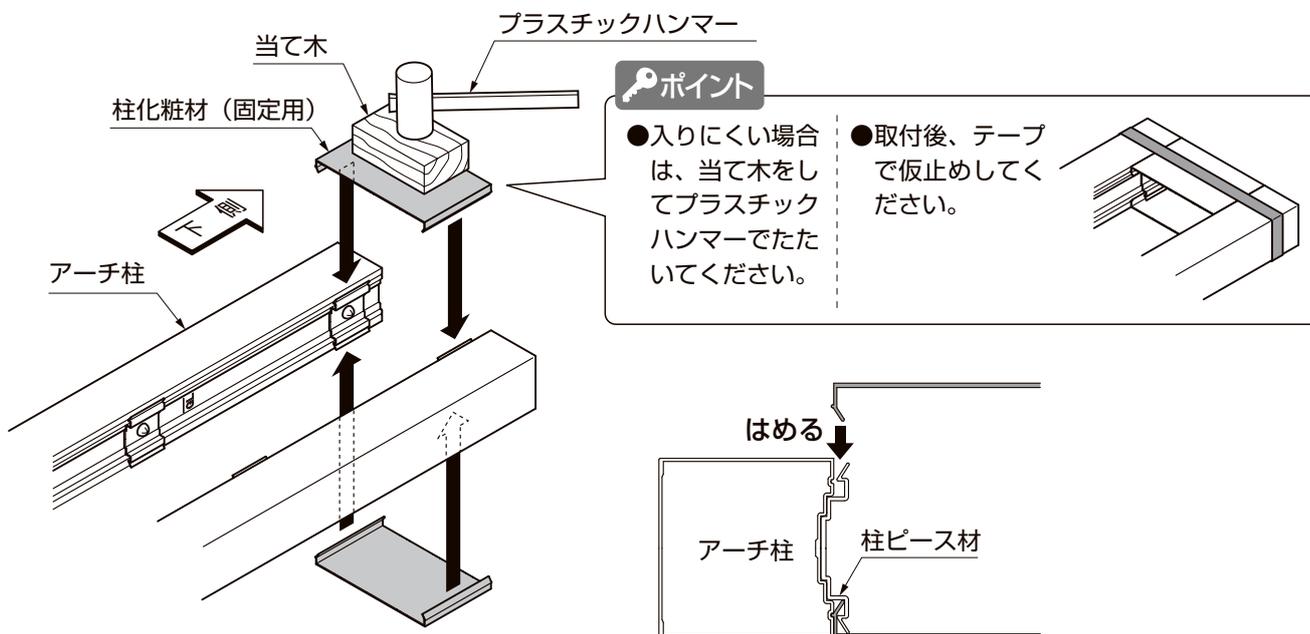
- ①アーチF固定金具をアーチ柱に【1-1】で取付けてください。
- ②柱ピース材をアーチ柱に【1-1】で取付けてください。

(2) 角面材18×20壁付用の取付け ※貫通させる壁の厚みが125mm未満の場合の作業です。



- ①ベースをアーチ柱に【10-1】で取付けてください。
- ②カバーをベースにはめ込んでください。

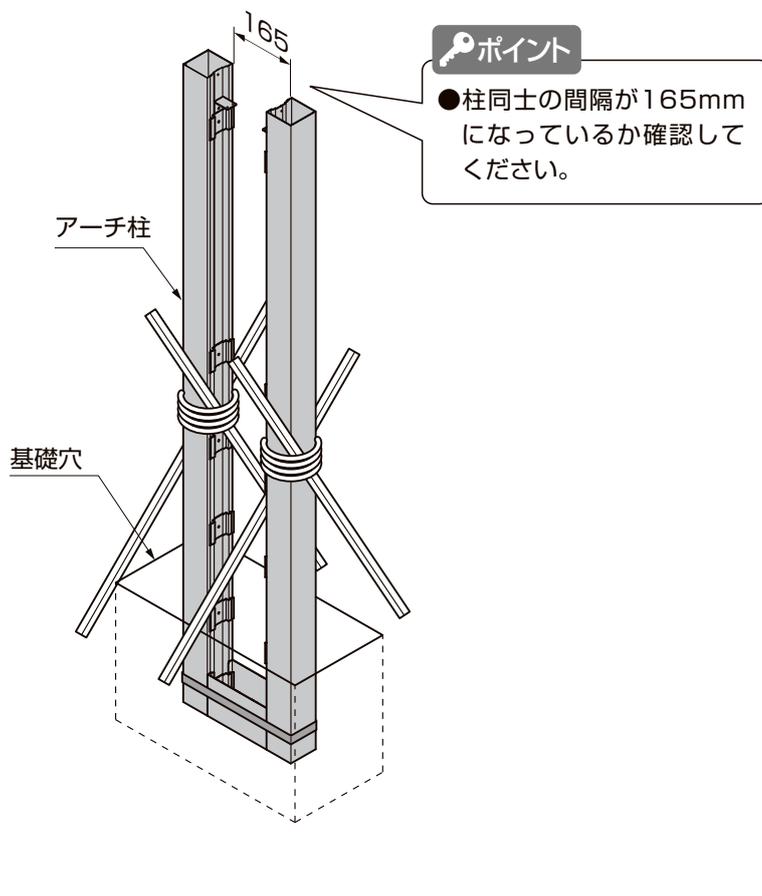
(3) 柱化粧材（固定用）の取付け ※標準仕様の場合の作業です。



①柱化粧材（固定用）をアーチ柱と柱ピース材のすき間にはめ込み、柱をつなげてください。

1-2 柱の建込み

(1) 標準仕様の場合



①アーチ柱を基礎穴に建込み、添え木などで仮固定してください。

1. (つづき)

1-2 つづき

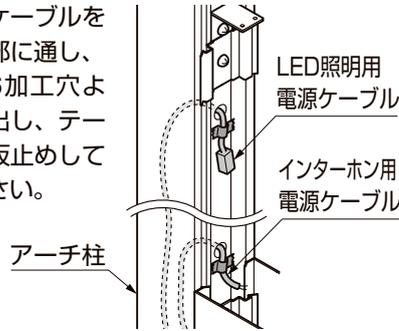
(2) 壁貫通納まりの場合

ポイント

● 柱同士の間隔が165mmになっているか確認してください。

【LED照明・インターホンを取付ける場合】

● 電源ケーブルを柱内部に通し、φ16加工穴より引出し、テープで仮止めしてください。



ポイント

● 柱同士の間隔が165mmになっているか確認してください。

ポイント

● テープで仮止めしてください。

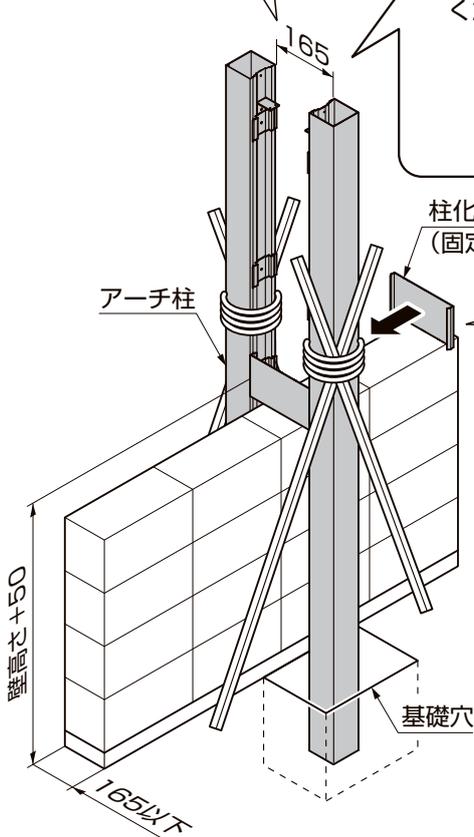


図1-1 すでに設置済みの壁の場合

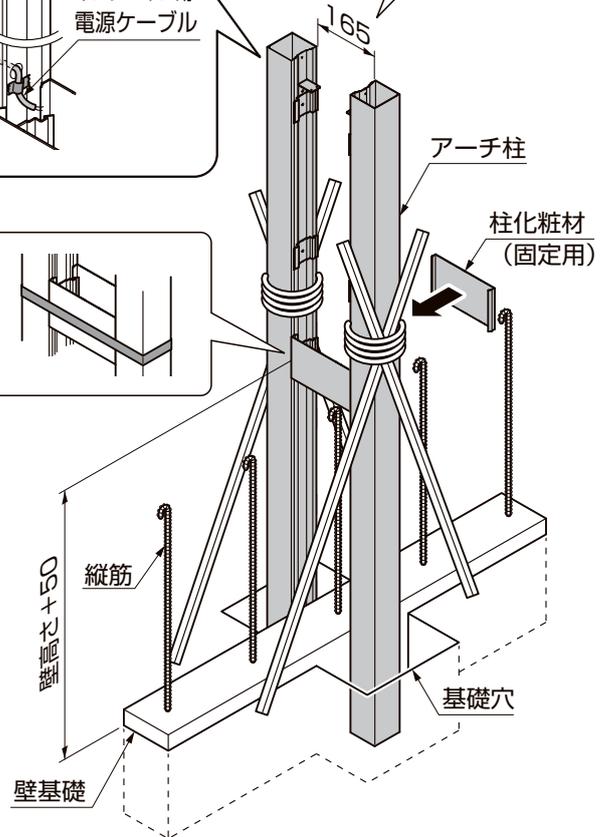
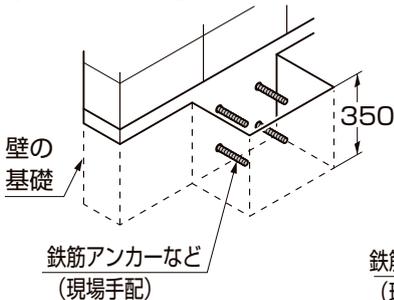


図1-2 新たに壁を設置する場合

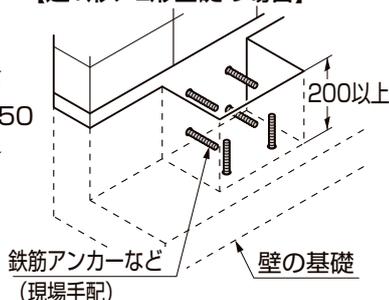
ポイント

● 壁の基礎とアーチ柱の基礎を一体化させるために、壁の基礎に鉄筋アンカーなどを打ち込んでください。

【I形基礎の場合】



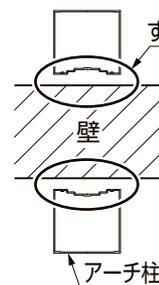
【逆T形、L形基礎の場合】



● 壁とアーチ柱のすき間は均等にしてください。

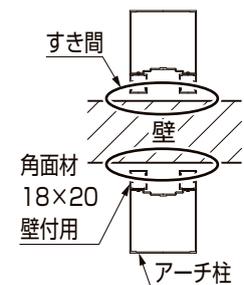
【壁厚さ

125~126mmの場合】



【壁厚さ

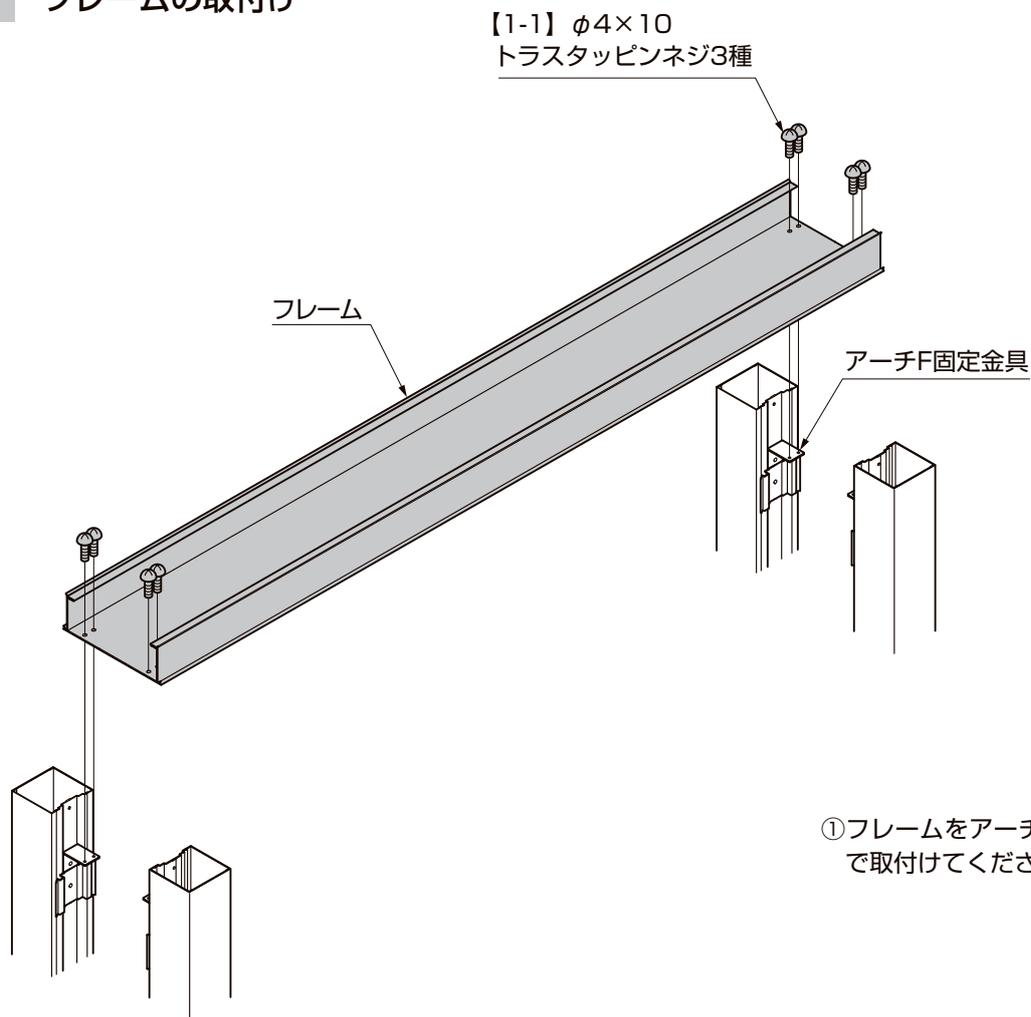
125mm未満の場合】



- ① アーチ柱を基礎穴に建込み、添え木などで仮固定してください。
- ② 柱化粧材をアーチ柱にはめ込んでください。

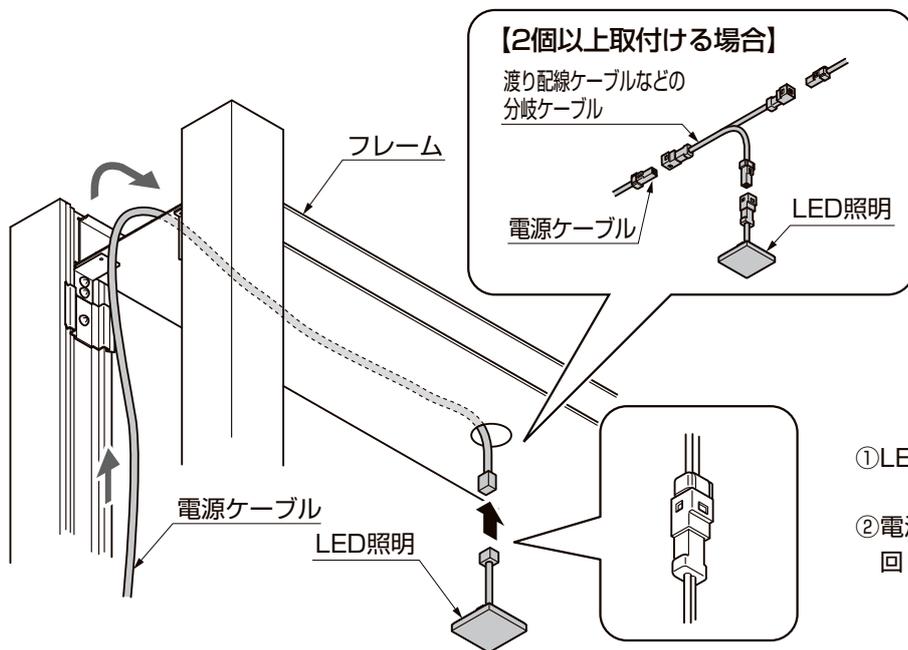
2. フレームの取付け

2-1 フレームの取付け



①フレームをアーチ固定金具に【1-1】
で取付けてください。

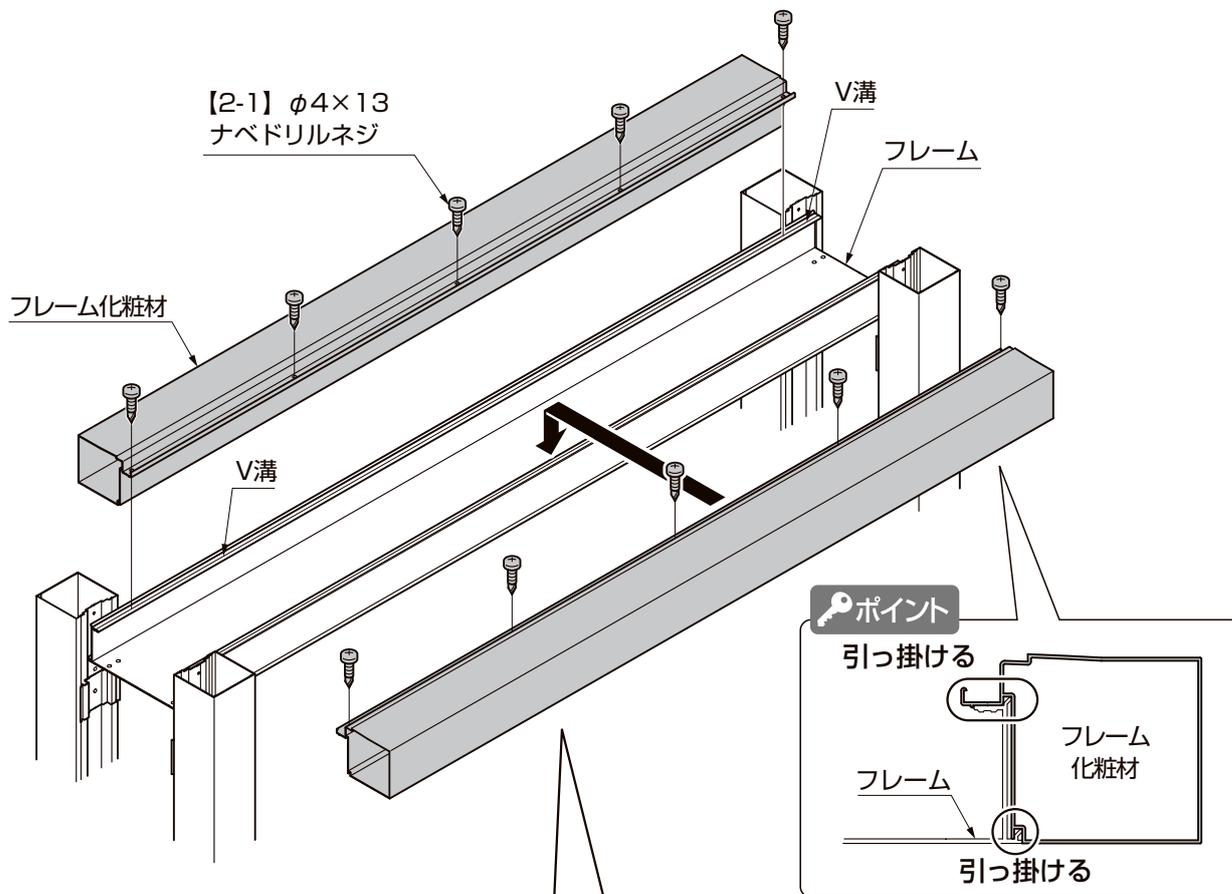
2-2 LED照明の取付け ※フレームにLED照明 **オプション** を取付ける場合の作業です。



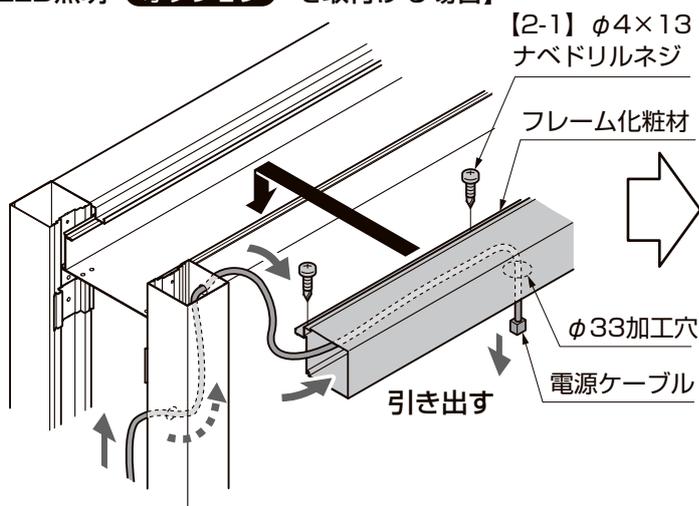
①LED照明をフレームにはめてください。

②電源ケーブルをフレームの上まで這い
回し、LED照明と接続してください。

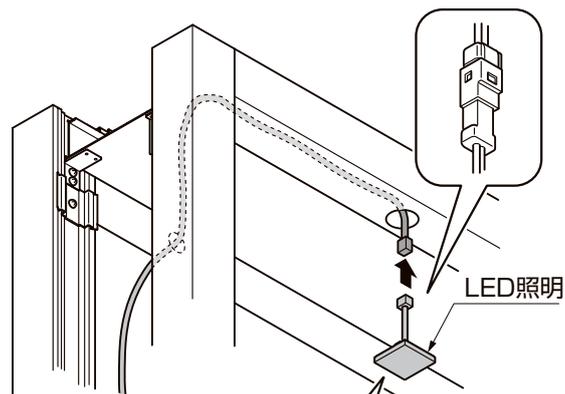
3. フレーム化粧材の取付け



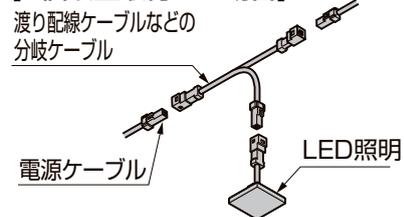
【LED照明 オプション を取付ける場合】



- ①電源ケーブルをフレームまで立上げ、柱とフレーム化粧材に通し、φ33の加工穴から引き出してください。
- ②フレーム化粧材をフレームに【2-1】で取付けてください。
- ③電源ケーブルとLED照明を接続してください。
- ④LED照明をフレーム化粧材にはめてください。



【2個以上取付ける場合】

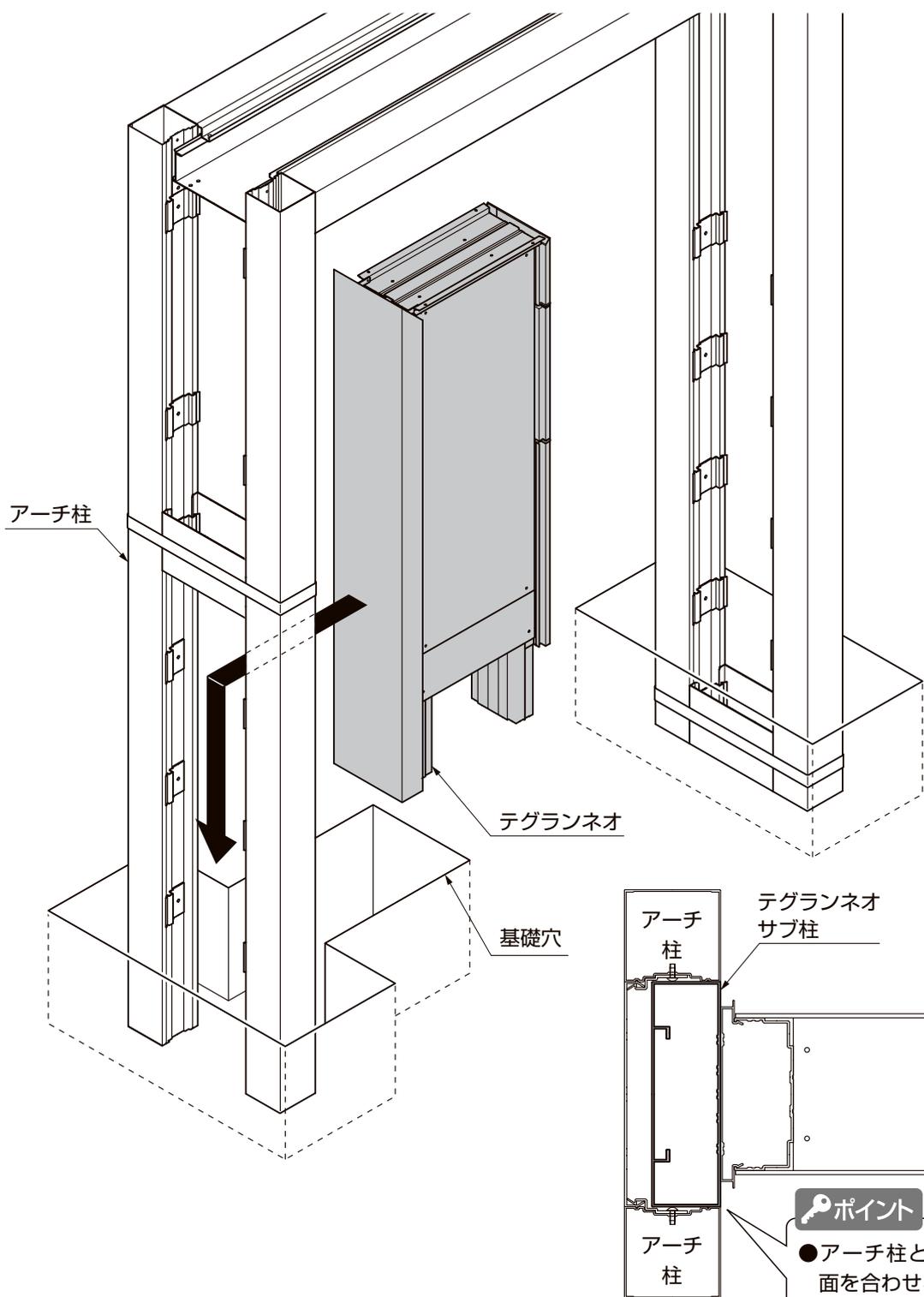


- ①フレーム化粧材をフレームに【2-1】で取付けてください。

5. テグランネオの接続 ※フラットアーチとテグランネオを接続する場合の作業です。

ポイント

- テグランネオの組立ては、「テグランネオ 本体編 取付説明書 (B084)」を参照してください。

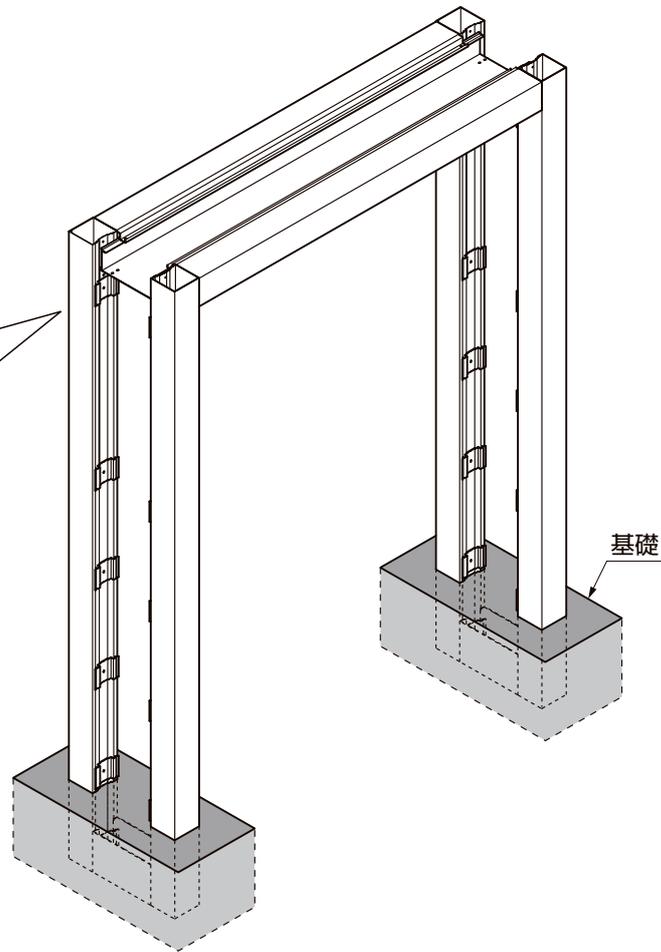
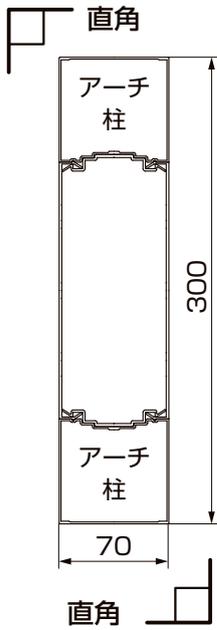


- ①テグランネオ本体とサブ柱を組付けた状態で、アーチ柱の間にサブ柱を建込んでください。
- ②アーチ柱とサブ柱の面を合わせてください。

6. 基礎の打設

ポイント

- アーチ柱の直角を確認してください。



ポイント

【勾配を付けた施工の場合（勾配斜面への施工）】

- アーチ柱のG.L.刻印が土間勾配の最低ラインになるようにしてください。

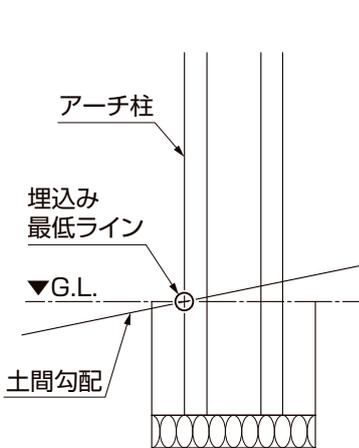


図6-1 側面図

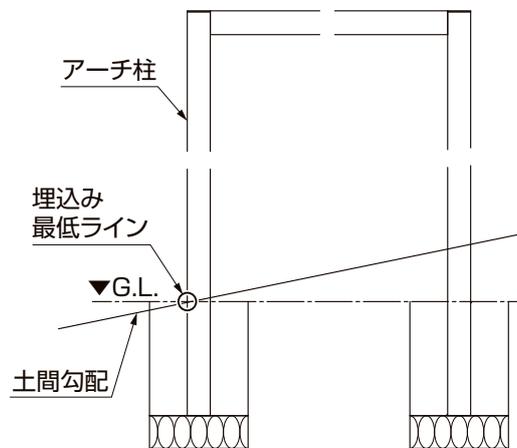
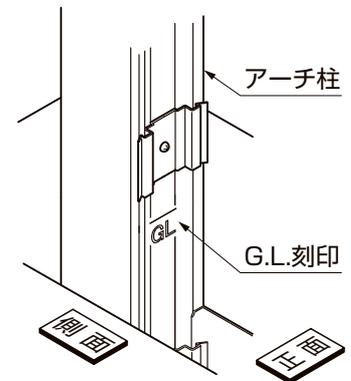
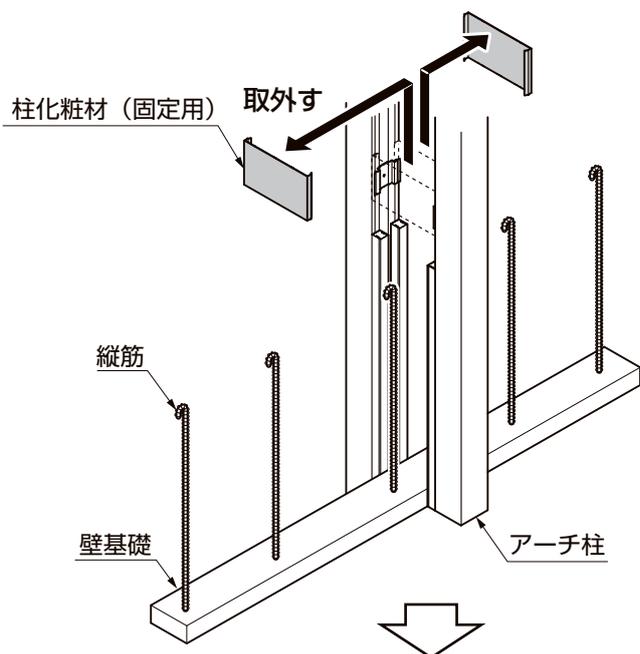


図6-2 正面図

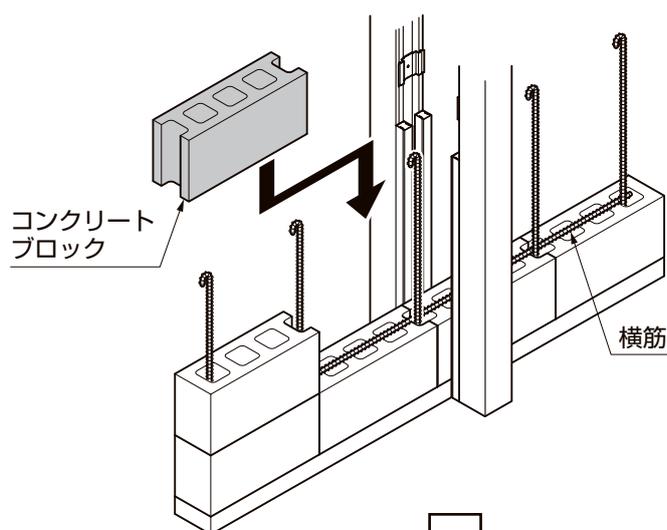


- ①基礎を打設してください。

7. 壁貫通納まりの施工 ※新たに設置する壁を貫通させる場合の作業です。



①仮止めしている柱化粧材 (固定用) を取外してください。



②コンクリートブロックを施工してください。

ポイント

●縦筋や横筋は現場に合わせて適切に配置してください。

8. 内側の柱化粧材の取付け ※テグランネオ接続の場合は、先にテグランネオの取付けを行なってください。

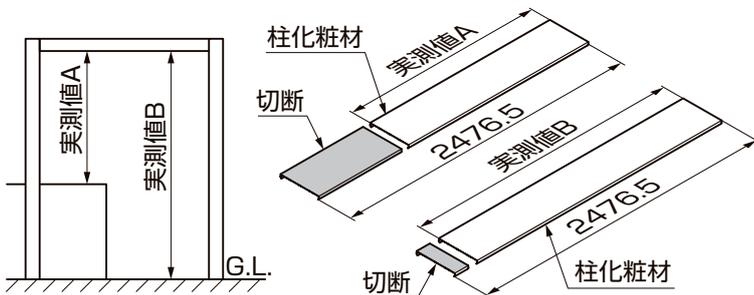
ポイント

●横格子やサイン・インターホンの取付けをする場合は、柱化粧材の上下の向きに気をつけてください。

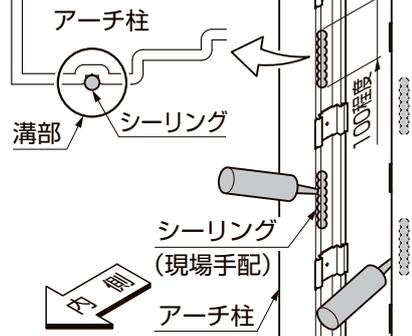
【柱化粧材の加工】

ポイント

- 柱化粧材には長さが2種類あります。内側には長さが短い方を使用してください。
- 横格子用の場合は下側を切断してください。
- サイン・インターホン用の場合は上側を切断してください。



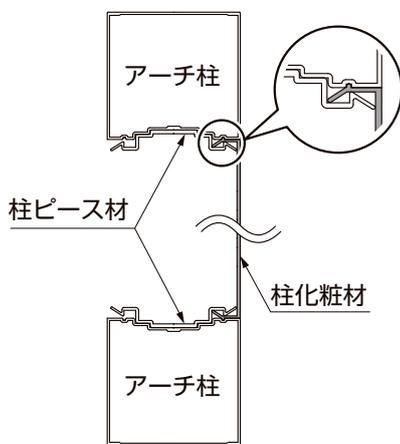
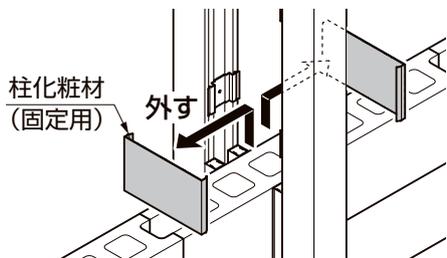
【シーリング】



ポイント

【壁貫通納まりまたはテグランネオ接続の場合】

●柱化粧材 (固定用) を取外してください。

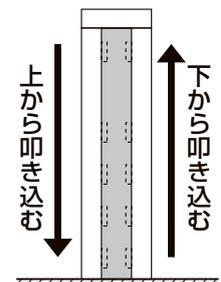


- ①柱化粧材を切断してください。
- ②アーチ柱の溝にシーリングしてください。
- ③柱化粧材をアーチ柱と柱ピース材のすき間にはめてください。

ポイント

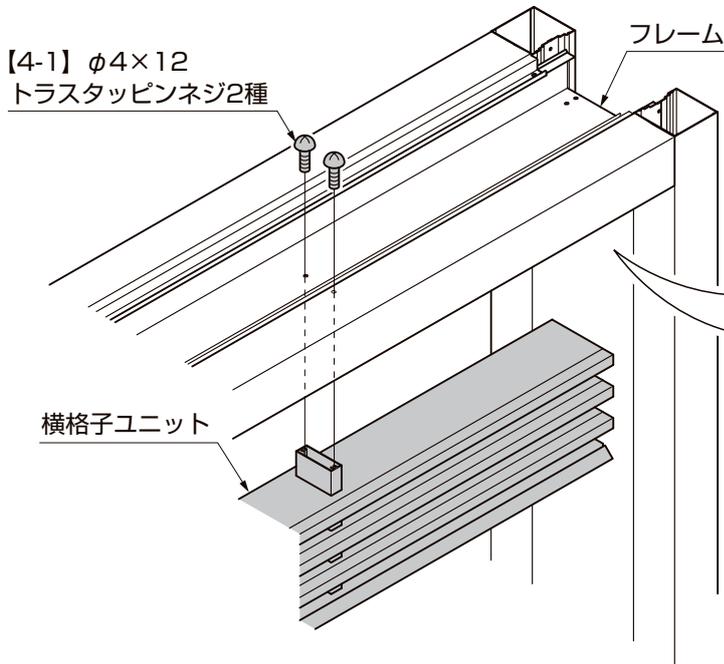
●柱化粧材が入りにくい場合は、当て木を使いプラスチックハンマーで叩いてください。

●柱の右側と左側で叩き込み始めると入れやすいです。



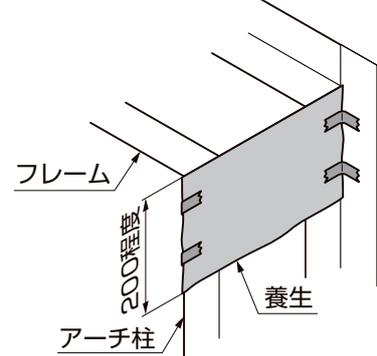
9. 横格子の取付け ※横格子 **オプション** を取付ける場合の作業です。

9-1 横格子ユニットの取付け



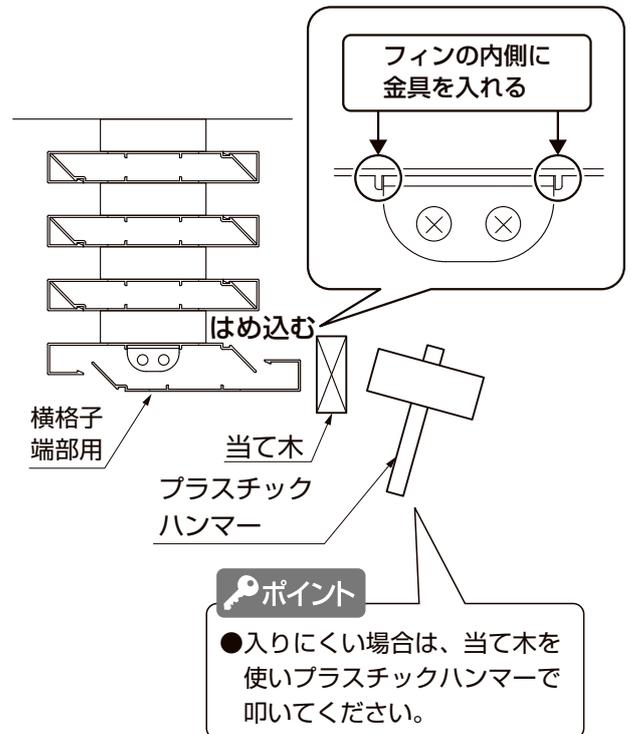
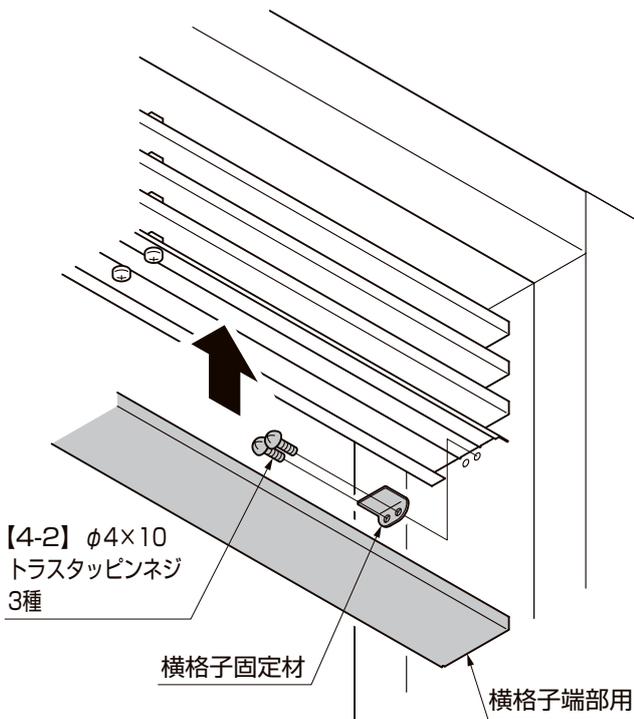
ポイント

- 横格子ユニット取付けの際は、キズがつくのを防止するため、アーチ柱を養生をしてください。



- ①横格子ユニットをフレームに【4-1】で取付けてください。

9-2 横格子固定材、横格子端部用の取付け



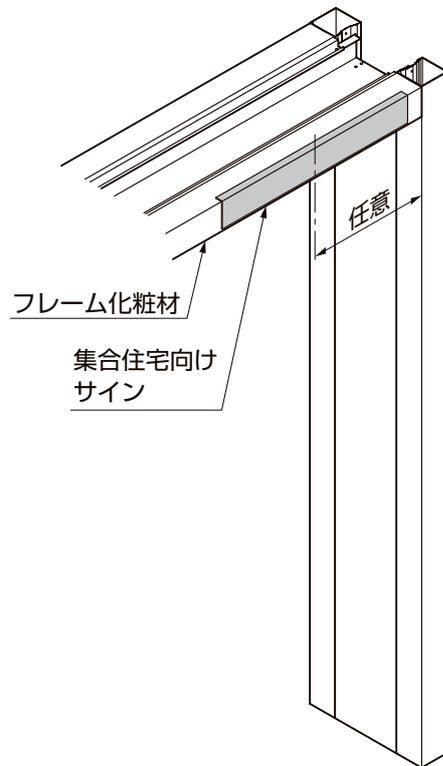
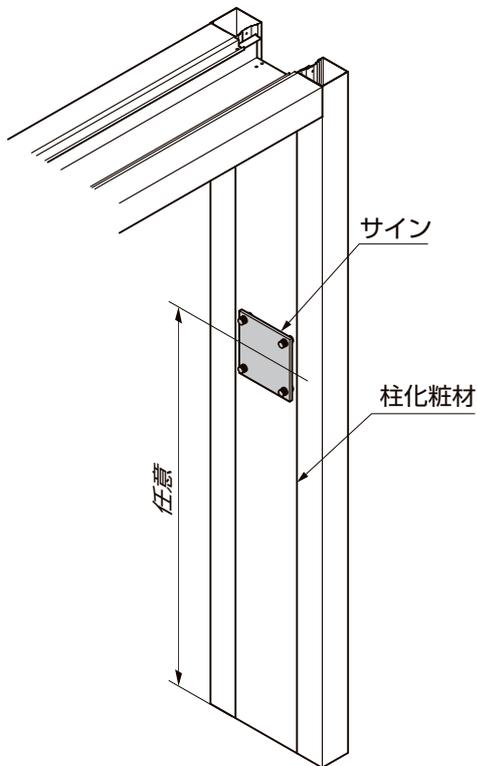
ポイント

- 入りにくい場合は、当て木を使いプラスチックハンマーで叩いてください。

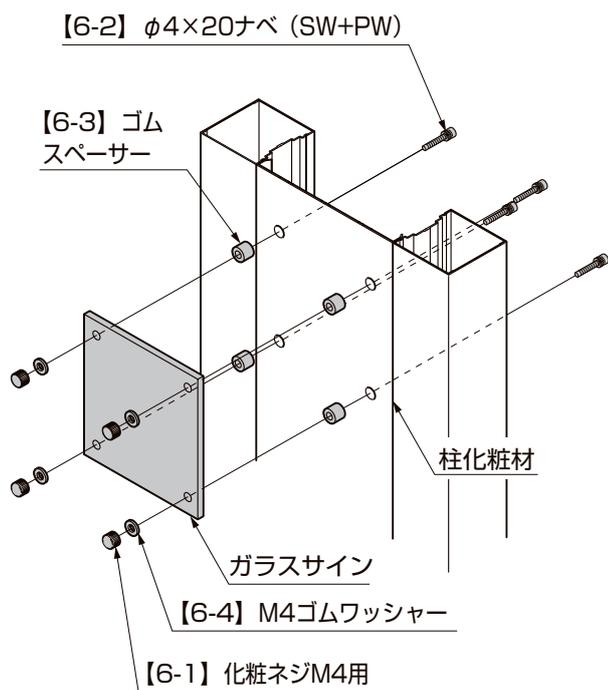
- ①横格子固定材を柱化粧材に【4-2】で取付けてください。
- ②横格子端部用を横格子ユニットにはめてください。

10. サイン **オプション** の取付け

10-1 取付位置の確認

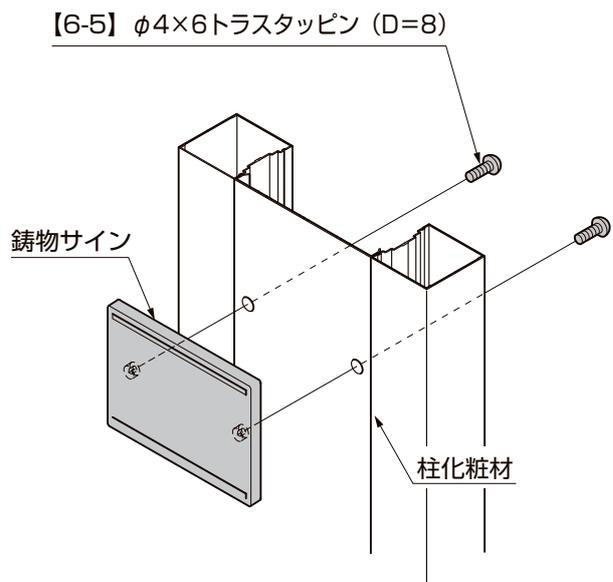


10-2 ガラスサインの取付け



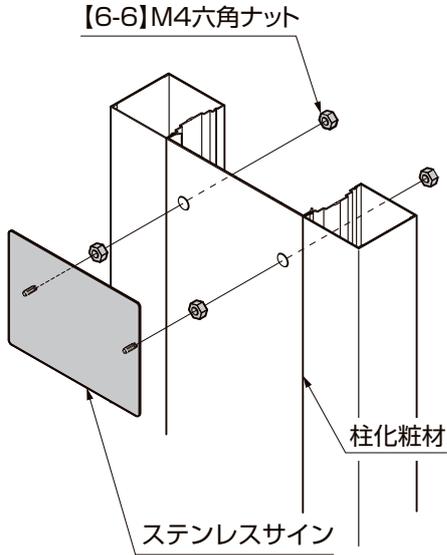
①ガラスサインを柱化粧材に【6-1】、【6-2】、【6-3】、【6-4】で取付けてください。

10-3 鋳物サインの取付け



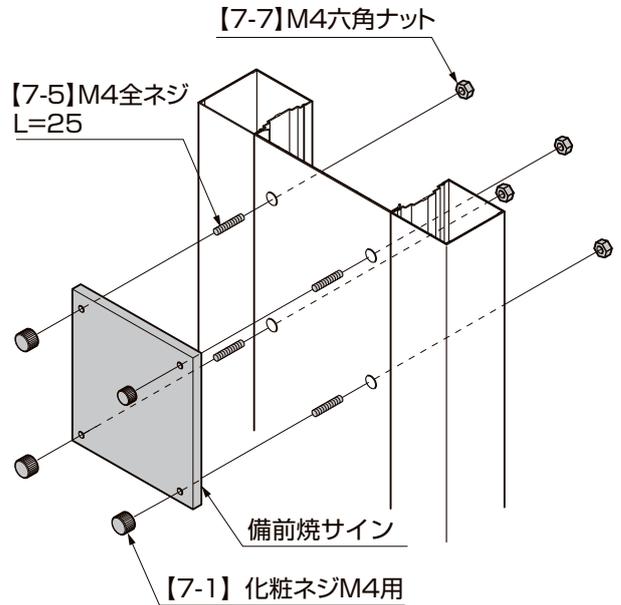
①鋳物サインを柱化粧材に【6-5】で取付けてください。

10-4 ステンレスサインの取付け



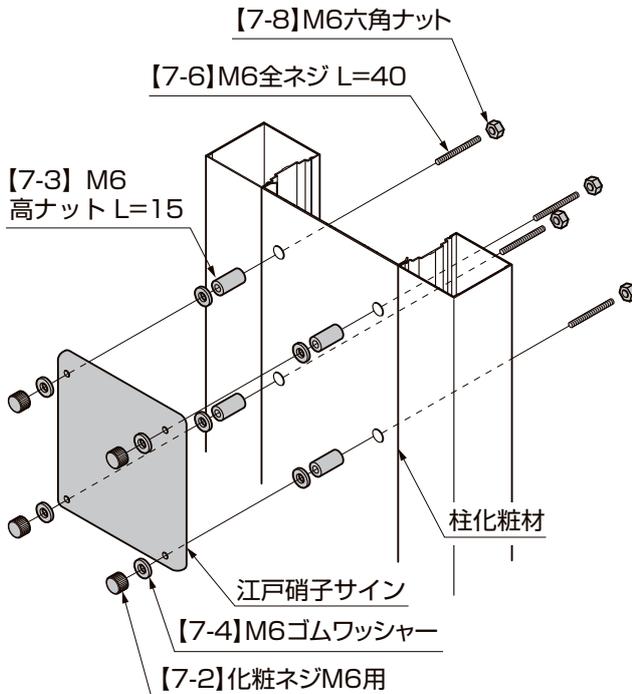
- ①ステンレスサインを柱化粧材に【6-6】で取付けてください。

10-5 備前焼サインの取付け



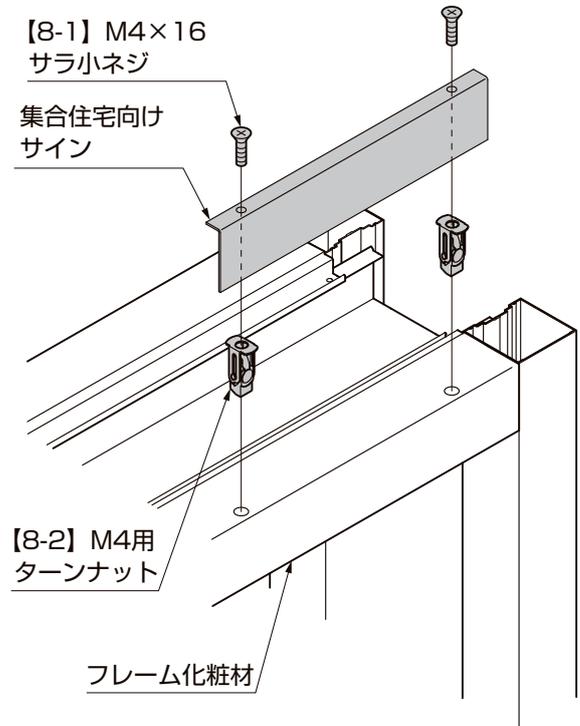
- ①備前焼サインを柱化粧材に【7-1】、【7-5】、【7-7】で取付けてください。

10-6 江戸硝子サインの取付け



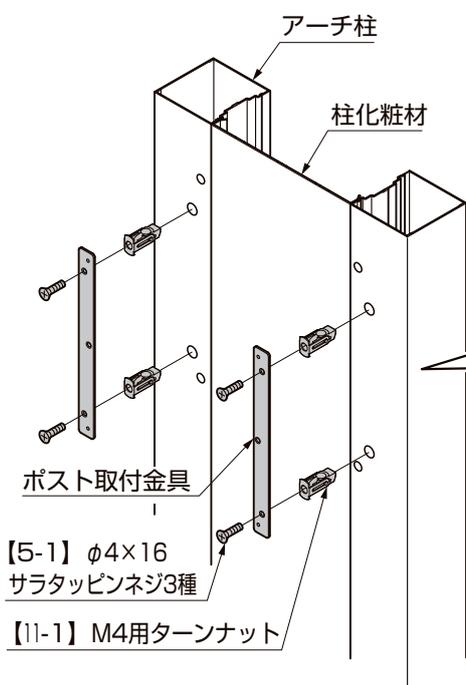
- ①江戸硝子サインを柱化粧材に【7-2】、【7-3】、【7-4】、【7-6】、【7-8】で取付けてください。

10-7 集合住宅向けサインの取付け

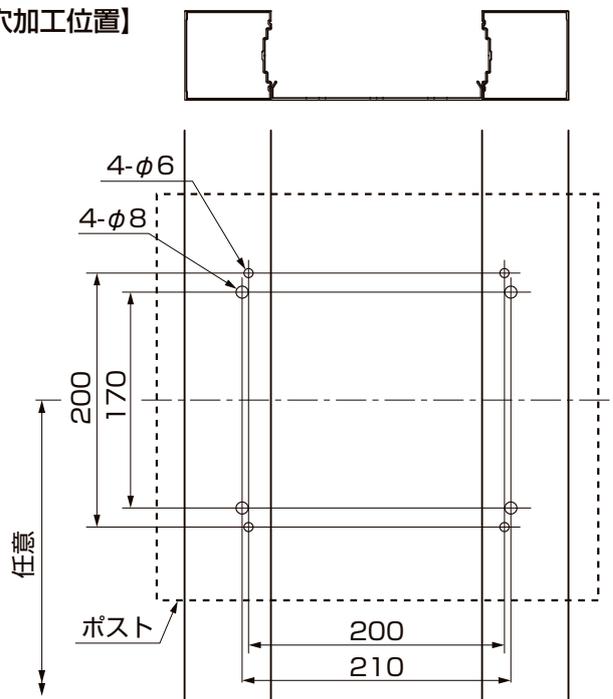


- ①集合住宅向けサインをフレーム化粧材に【8-1】、【8-2】で取付けてください。

(2) アーチ柱に取付ける場合



【穴加工位置】



- ① アーチ柱に $\phi 6$ と $\phi 8$ の穴加工をしてください。
- ② 【11-1】 をアーチ柱に取付け、ポスト取付金具を 【5-1】 で取付けてください。

12-2 ポストの取付け

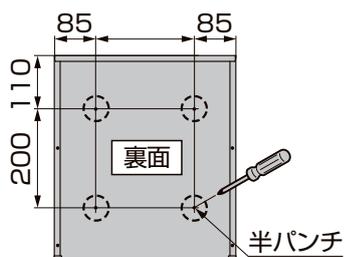


図12-1
フラット横型ポスト、グレイス

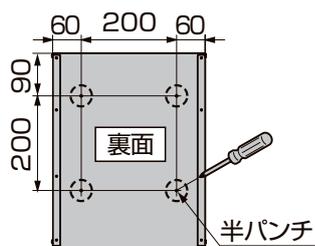


図12-2 プレイン

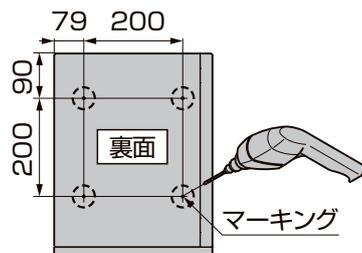
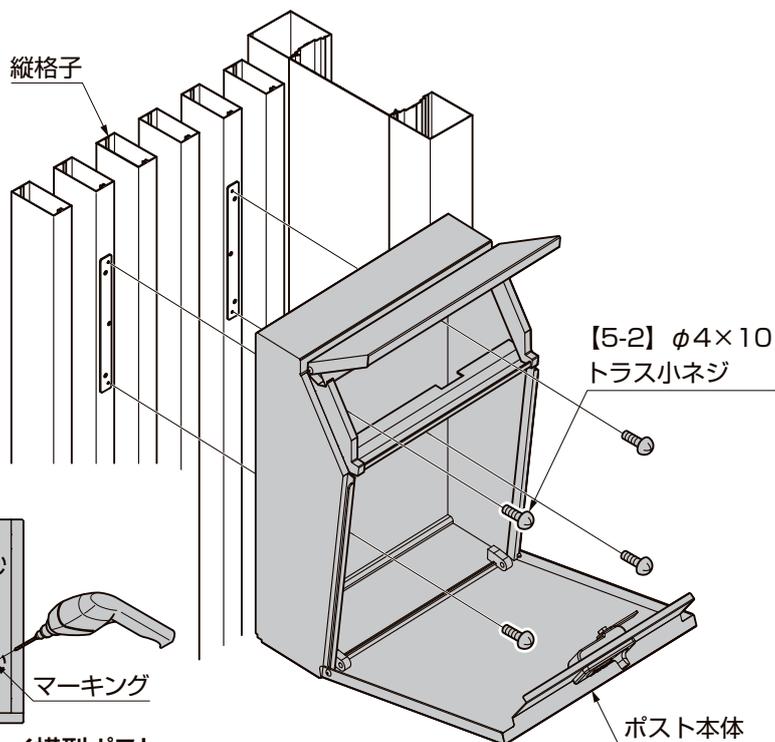


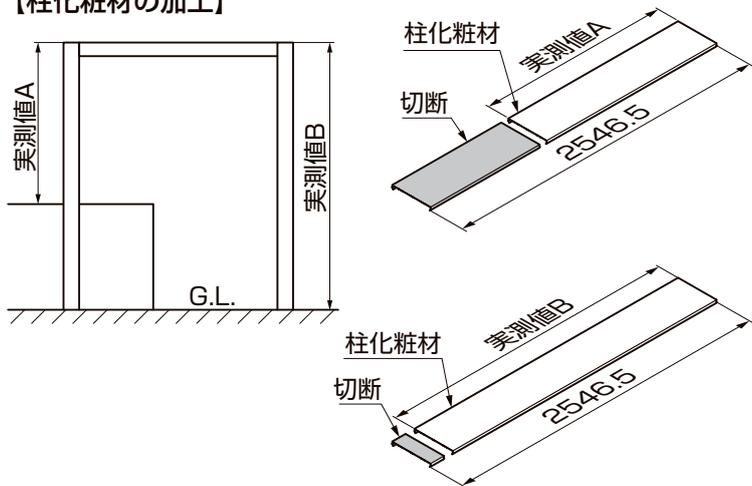
図12-3 アクシイ横型ポスト



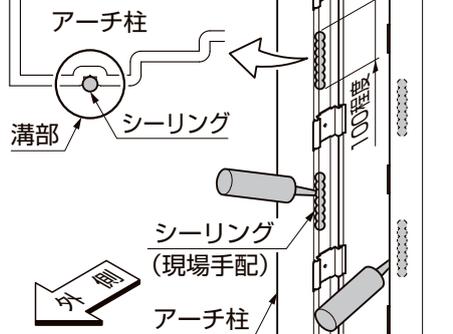
- ① ポスト本体の背面4ヶ所の半パンチにプラスドライバーをあてハンマーなどでたたいて、穴をあけてください。
(※アクシイの場合は $\phi 6$ のドリルで穴あけてください。)
- ② ポスト本体を縦格子に 【5-2】 で取付けてください。

13. 外側の柱化粧材の取付け

【柱化粧材の加工】

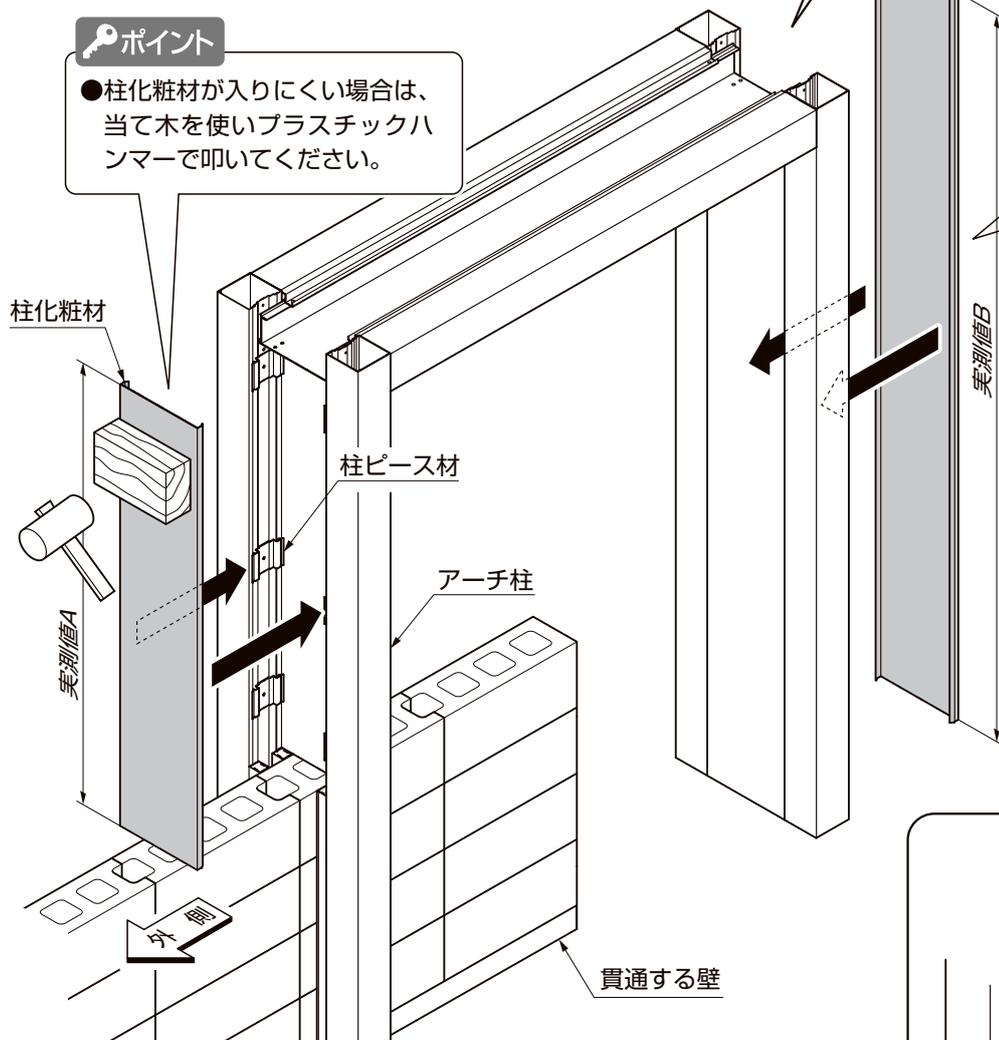


【シーリング】



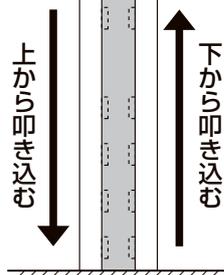
ポイント

●柱化粧材が入りにくい場合は、当て木を使いプラスチックハンマーで叩いてください。

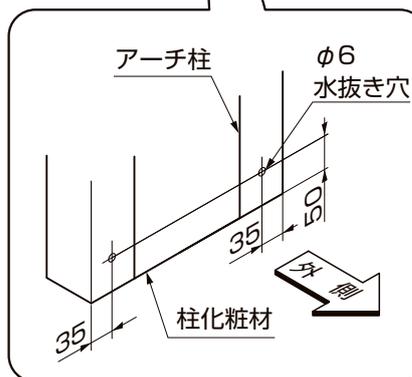


ポイント

●柱の右側と左側で叩き込み始める位置を変えると入れやすいです。



- ①柱化粧材を切断してください。
- ②アーチ柱の溝にシーリングしてください。
- ③柱化粧材をアーチ柱と柱ピース材のすき間にはめてください。
- ④アーチ柱に水抜き穴加工をしてください。



14. 柱キャップ、フレームカバーの取付け

①アーチ柱キャップをアーチ柱にはめてください。

ポイント

しならせる アーチ柱キャップ

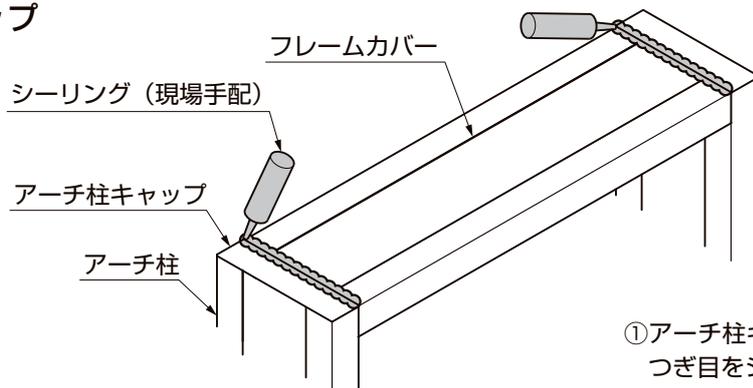
アーチ柱

しならせる

②フレームカバーをフレーム化粧材にはめてください。

15. シーリング処理

15-1 柱キャップ



①アーチ柱キャップとフレームカバーのつぎ目をシーリングしてください。

15-2 テグランネオ接続の場合

※アクリルパネルありの場合は脱アルコール系のシーリング材を使用してください。

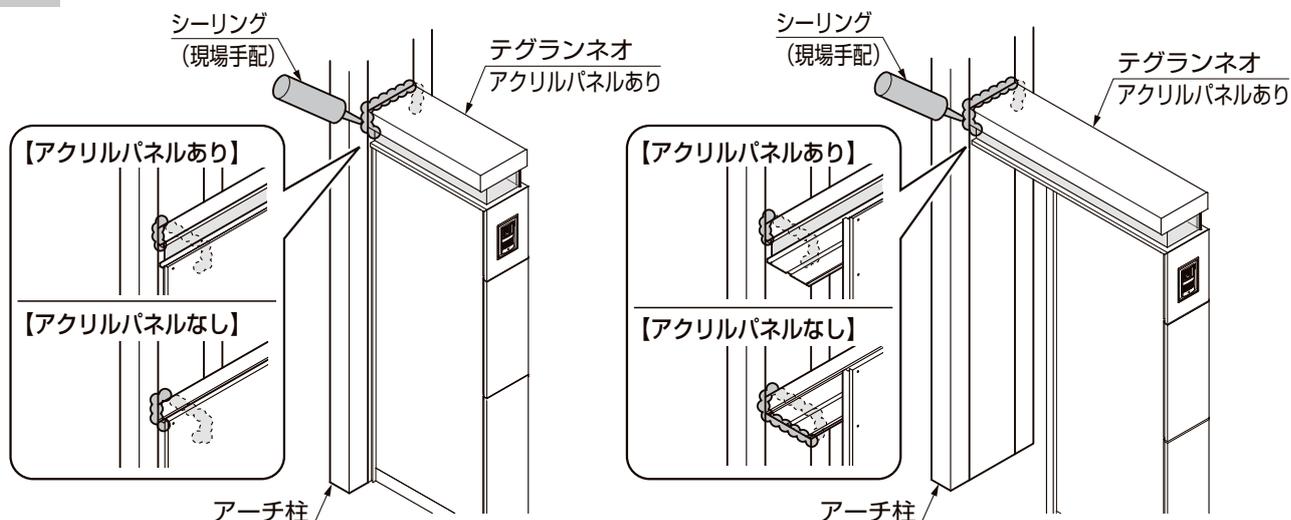


図15-1 W05

図15-2 W08

①アーチ柱とテグランネオのフレームのつぎ目にシーリングしてください。

15. (つづき)

15-3 壁貫通納まり

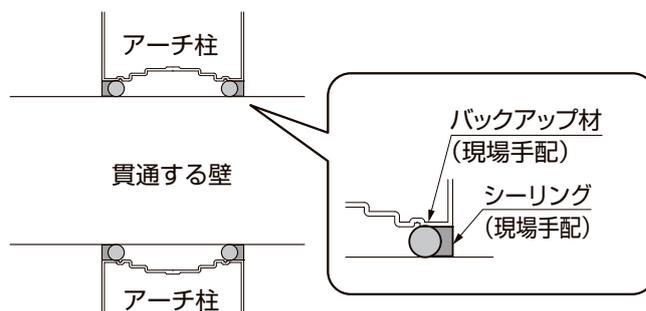
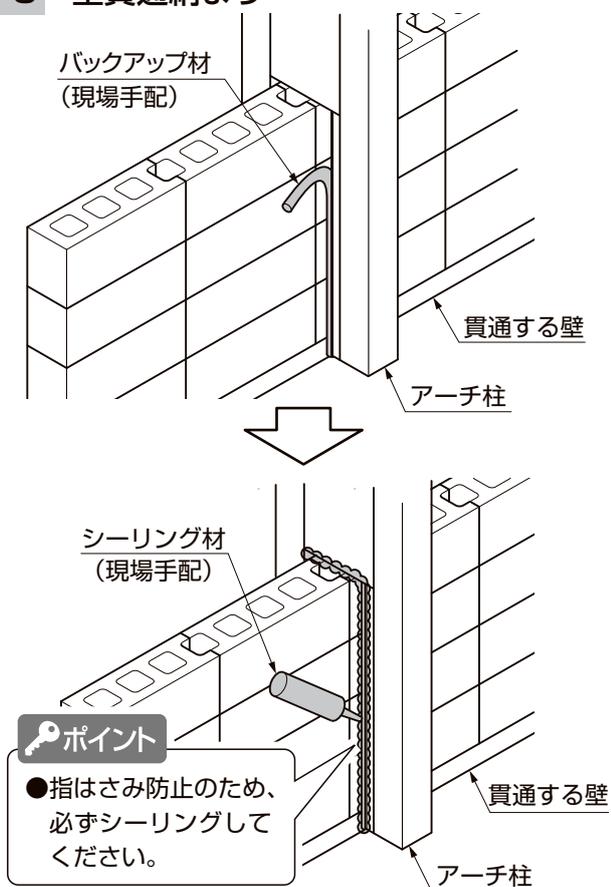


図13-1 壁厚さ125mm~165mm

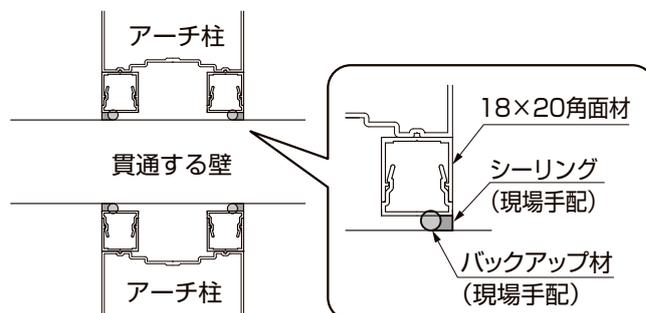


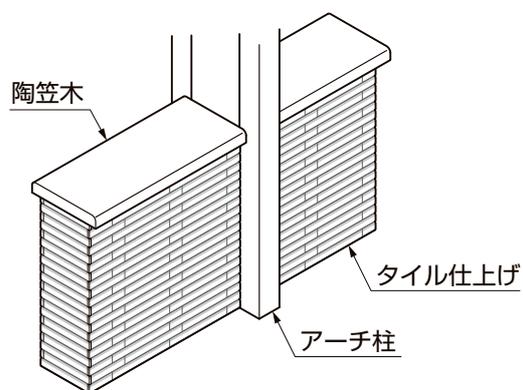
図13-2 壁厚さ125mm未満

- ①アーチ柱と壁のすき間にバックアップ材を取付けてください。
- ②アーチ柱と壁のすき間をシーリングしてください。

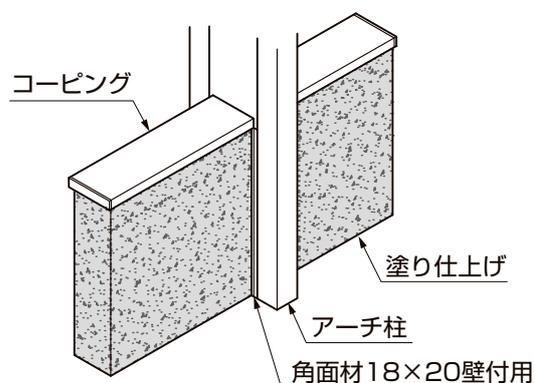
15-4 壁の仕上げ

ポイント

- 貫通させた壁に仕上げを施す場合、現場に合わせて仕上げを行なってください。



例1. タイル仕上げの例



例2. 塗り仕上げの例

取説コード

A601

JZZ630468B
201502A_1039
201607C_1047